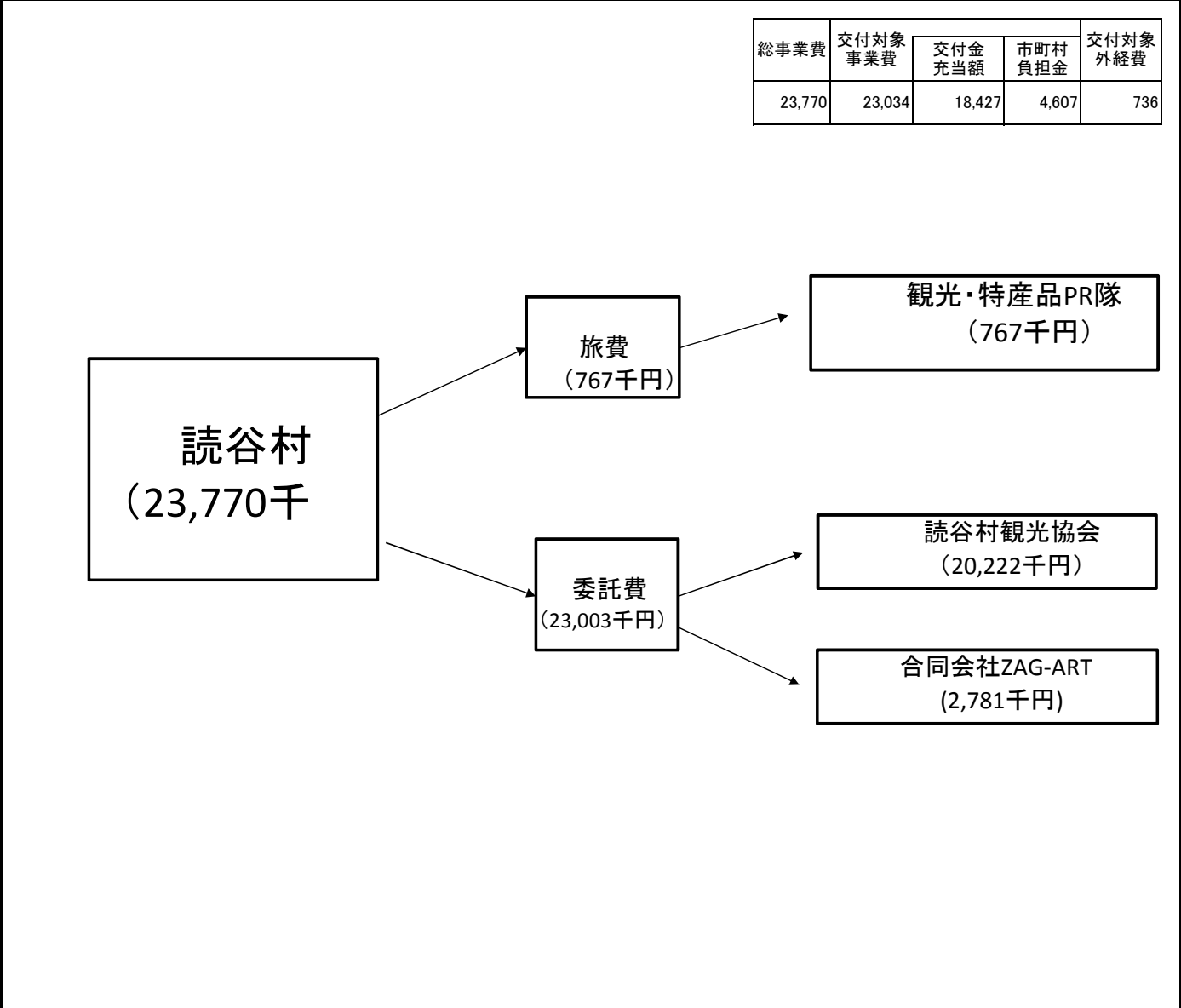


市町村名	読谷村									
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	1-①		読谷観光・物産アピールとスポーツコンベンション誘致促進事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-イ	
担当部署名	ゆたさむら推進部 商工観光課			事業実施(予定)年度	平成24～33年度			沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開	
									Ⅲ-1-(1)	
事業内容	スポーツコンベンションの誘致と、それを起爆剤とした観光誘客のために、誘客PRイベント、集客イベントを実施する。									
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度			
	予算の状況	(a) 当初予算額	16,323	21,648	21,760	18,700	25,868			
		(b) 予算現額	15,971	21,648	16,560	17,730	23,770			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 352	0	▲ 5,200	▲ 970	▲ 2,098			
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0			
		A. 計 (b+d)	15,971	21,648	16,560	17,730	23,770			
	B. 執行済額		15,926	15,083	14,821	16,210	23,770			
	うち交付金充当額		12,740	12,066	11,856	12,968	18,427			
	次年度繰越額		0	0	0	0				
	執行率 (%) (B/A)		99.7%	69.7%	89.5%	91.4%	100.0%			
予算の状況の説明		委託費における旅費の割合が大きく、当初見積っていた額より安くなったため実績に併せて変更契約を行ったことが予算減額の主な理由である。								
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)			達成状況						
				25年度	26年度	27年度	28年度			
	観光チラシ作成	目 標	(3,000枚)	(3,000枚)	(3,000枚)	(3,000枚)				
		実 績	3,000枚	3,000枚	3,000枚	3,000枚				
	観光PRイベントにてPR演舞	目 標	(11回)	(11回)	(8回)	(8回)				
		実 績	11回	11回	8回	8回				
	集客イベントの開催	目 標	(1日)	(1日)	(2日)	(2日)				
		実 績	1日	1日	1日	1日				
	よみたんブランドPRグッズ製作	目 標	()	()	()	(実施)				
		実 績				実施				
達成状況説明	プロ野球は中日ドラゴンズのホームである、ナゴヤドームにて観光PRイベントを行い観光チラシ1500枚の配布と演舞を行った。またJリーグディビジョン1についてはサガン鳥栖、ヴィッセル神戸のホームである、ベストアメニティスタジアム、ノエビアスタジアムにて観光PRイベントを行い観光チラシ1500枚の配布と演舞を行った。 また、2月の春季キャンプ中には2日の集客イベントを行う予定だったが、チームとの都合が合わず1日開催となった。									
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)			基準値(25年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)		
	誘致PRイベントにてPR演舞の観覧者	目 標	(40,000人)	(40,000人)	(40,000人)	(40,000人)	()			
		実 績	45,000超	45,000超	45,000超	45,000超				
	集客イベントの開催	目 標	(2000人)	(2,000人)	(2,000人)	(2000人)	()			
		実 績	2400人	1,407人	2,000人	2,000人				
	観光PRチラシ配付	目 標	()	()	()	(3,000枚)	()			
		実 績				3,000枚				
	よみたんブランドPRグッズ製作完了	目 標	()	()	()	(完了)	()			
		実 績				完了				
	進捗状況説明	観光PRイベントや、観光PRチラシを配布することで、実際にキャンプ期間中に沖縄へ訪れたいという方々に直接読谷村の周知活動などすることが出来た。今後の本村への観光誘客に繋がると考える。また、キャンプ時の集客イベントではチームと連携を図り選手や監督なども協力してくれたのでファン層の集客に繋がった。								

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	県外での読谷観光・物産アピールを行うことで、ファン層の間で本村の認知が高まってきていると感じる。今後は、実際の集客につなげられるような取り組みも行っていかなければならない。 28年度は過去最高の数のスポーツキャンプ、大会等の受入を実施した。キャンプ数が増えると、ピッチの芝状態を良好なまま維持することが難しくなるが、今後もサッカー等のスポーツキャンプに対応していくため良好なスポーツ施設の良好な環境維持が求められている。	現在集客イベントを行っているチーム以外にも、本村でのキャンプが定着しつつあるチームも増えてきているので、そのチームのファン層に対する観光誘客イベントを行うことで認知度向上を図っていく必要がある。さらに今後は、キャンプ時に村内での集客イベントの開催日を増やすなど、村内への集客を強化する必要がある。 また、ラグビーワールドカップやオリンピックに向けた事前合宿など、ますますプロチーム、ナショナルチームのキャンプニーズが高まっている。スポーツキャンプにおいてはスポーツ施設(芝など)の良好な状態が不可欠であるため、維持管理を徹底しながらチームにとって使い勝手の良い備品等の充実をはかることが必要と考える。

今後の取り組み方針
当事業は、継続事業となっており、今後もキャンプの継続誘致とファン層の観光誘客のため、球場、スタジアムでの伝統芸能披露、観光PR映像の上映、読谷村PRブースの設置、観光PRチラシ等の配布などを行う。加えて、県及び近隣市町村が行っている県外、国外へのスポーツキャンプ誘致とも連携しさらに多くのスポーツキャンプ誘致活動を行う。また、引き続き多くのスポーツキャンプに対応できるよう施設環境の良好な維持を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は、実績などを勘案した上で選定しているため妥当であり、又予算規模については、事業の合同実施などにより不用が生じたものの、事業目標を概ね達成しているため、適正な規模であったと考えられる。 費目・使途については、額の確定時において支出などに関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	危険生物駆除事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	総務部 生活環境課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
					Ⅲ-1-(1)		
事業内容	危険生物として駆除の対象となっているハブの咬症被害が、本村においても毎年のように発生し、村民はもとより観光客が被害にあう事例も発生している。また、これまで近隣市町村でのみ捕獲された攻撃性の強いタイワンハブの捕獲事例が本村でも発生しており、その蔓延を防ぐためにも早期の駆除活動の強化が必要である。来村する観光客や行楽客、そして村民をハブ咬症から守るため、捕獲器を設置し継続的なハブの捕獲、駆除により個体数を減らすことで、より安全な観光地を目指す。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	15,358	10,576	7,349	8,090	
		(b)予算現額	15,358	4,975	7,349	6,180	
		(c)増減額(b-a)	0	▲5,601	0	▲1,910	
		(d)繰越額	0	0	0	0	
		A.計(b+d)	15,358	4,975	7,349	6,180	
		B.執行済額	6,418	4,939	5,894	6,179	
		うち交付金充当額	5,133	3,951	4,715	4,943	
		次年度繰越額	0	0	0	0	
		執行率(%) (B/A)	41.8%	99.3%	80.2%	99.98%	
	予算の状況の説明	計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。指名競争入札による入札残分を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	ハブ捕獲器400器を設置し巡回する。	目標	(設置)	(設置)	(設置)	(設置)	
		実績	設置完了	設置完了	設置完了	設置完了	
	2週間を目処に巡回・管理	目標	()	()	(25回)	(25回)	
		実績			26.8回	25.8回	
	注意喚起看板の設置100枚	目標	()	()	()	(100枚)	
		実績				100枚	
達成状況説明	・H28.4月中旬に委託業務を発注し、ハブ捕獲器400器を設置した。 ・また捕獲する為のエサとなるマウスを飼育し、設置期間における2週間を目処に巡回・鼠の管理を行った結果、25回の予定回数を上回る結果となった。 ・危険周知の看板を設置し、観光客及び村民への啓発に繋げた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	ハブ類による咬傷被害数:0件	目標	(0)	(-)	(0)	(0)	(-)
		実績	3	-	1	1	
	巡回・管理	目標	(-)	()	()	(巡回・管理の実施)	()
		実績				巡回・管理の実施	
	看板設置完了(100枚)	目標	(-)	()	()	(100枚)	()
		実績				100枚	
	【参考指標】	目標	(-)	(100匹)	(100匹)	(100匹)	()
実績			3匹	130匹	155匹	133匹	
進捗状況説明	・昨年度同様、発注時期(捕獲時期)を早めた結果、目標(参考指標)を達成することができた。 ・継続的に捕獲することで、咬傷被害増加の抑制につながったと考えられるが、結果としては、今年度も咬傷被害:1件発生し、成果目標を達成できなかった。その要因として、観光客や村民への周知の手法や特定ハブの生息域が拡大している可能性が考えられる。そのため、周知手法の改善や特定ハブの生息域の把握に努め、咬傷被害の増加を抑制し、将来的な0件達成に繋げる。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・ハブ捕獲器設置にあたり、村民等に対し必要性等周知の徹底が必要。 ・【ハブに注意】看板を設置することにより捕獲器周辺の安全を確保。	・年度当初からの早期着手を図る為、申請事務処理の円滑化を図る。 ・ハブの活動が活発となる4～5月に向け、委託業務を発注し、ハブ等の駆除作業に取り組み観光客等への危険性の除去を図る。 ・事業の概要等を村HP等を活用し、周知を図る。
今後の取り組み方針		
・4月初旬での早期着手を行い業務を発注し、ハブ等の活動が活発になる前に捕獲器を設置することにより危険性の除去に努める。 ・捕獲器及び危険周知看板の維持管理を行う。また、村HPに事業内容等を掲載し、住民並びに観光客等に対し捕獲器設置への理解協力を促すと共に危険事業内容についての更なる周知に努める。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6,179</td><td>6,179</td><td>4,943</td><td>1,236</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,179	6,179	4,943	1,236	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,179	6,179	4,943	1,236	0										
読谷村 6,179千円 委託料 5,801千円 (有)読谷環境 5,801千円 ハブの捕獲・巡回・処分委託 事務費 378千円 (株)ジムキ文明堂 378千円 需用費 (消耗品 : 危険周知看板購入)														
資金の 使途の 流れ、 検 査 目 的	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札方式により決定した。 県内実績を勘案し選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模として不用額はすべて入札残であり、適正な規模であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③ ヨミタンJOHO発信事業(読谷観光情報等PRラジオ番組制作・放送事業)		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-イ		
担当部署名	ゆたさむら推進部 商工観光課		事業実施(予定)年度	平成25～33年	沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	主にレンタカーを利用する観光客を、国道58号より西側の本村内に誘導することを目的に、観光情報番組を毎日午前中の移動想定時間帯に制作・放送する。また、レンタカー利用者に配布されるドライブMAPに番組の情報を掲載し、聴取機会の向上を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,885	6,636	6,876	7,506	
		(b) 予算現額	3,885	6,636	6,876	7,506	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	
		A. 計 (b+d)	3,885	6,636	6,876	7,506	
	B. 執行済額		3,885	6,199	6,574	7,216	
	うち交付金充当額		3,108	4,959	5,258	5,772	
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	93.4%	95.6%	96.1%	
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
				28年度	29年度	30年度	31年度
	コミュニティFM放送を活用した観光情報の提供	目 標	(実施)	()	()	()	()
		実 績	実施				
	レンタカードライブMAPへの記事掲載	目 標	(実施)	()	()	()	()
		実 績	実施				
達成状況説明	事業期間中(平成28年4月11日から平成29年3月17日)は毎日放送を行った。 委託先事業者が一般社団法人 レンタカー協会へ加盟しており、平成27年度から引き続き同協会が発行する「レンタカードライブマップ」への掲載により、レンタカー利用者に対して大規模な観光情報の提供ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	視聴者からのメール受信	目 標	()	(-)	(432件)	(650件)	()
		実 績		393件	1,442件	1,395件	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
進捗状況説明	事業期間中(平成28年4月11日から平成29年3月17日)は毎日放送を行い、多くのレンタカー利用者に読谷村の情報を発信するよう努めることで、視聴者からのメール受信件数において目標を達成することができた。 「レンタカードライブマップ」への掲載等の効果により、昨年に引き続き成果目標を大きく上回ることができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	レンタカー協会発行の「レンタカードライブマップ」へ掲載によりレンタカー利用者に対しての効果的な周知ができたが、利用者をいかに村内に誘客していくかが今後の課題。 引き続き観光協会と協議し、委託先事業者からフィードバックされた情報の活用方法を検討しているが、現状としては効果的な活用ができていない。	レンタカー利用者、ドライブマップ閲覧者がより多く村内へ立ち寄ってもらえるよう、番組内での情報の周知方法を検討する必要がある。また、情報の活用方法を委託事業者と検討し、視聴者からのメール件数等フィードバックされた情報を活用することで、より効果的な情報の発信を図る。 リスナープレゼントを聴取者を対象に行っていたため、誘客効果の検証に課題があり、改善の必要がある。

今後の取り組み方針
ドライブマップへの掲載部数を増やし、適正な部数について検討する。 リスナーへのプレゼントを実際に来村された方を対象にすることによって、ドライブマップによる誘客効果の検証を行う。 観光協会・委託先事業者・村の三者で協議し、メール受信件数等フィードバックされた情報を基に効果的な情報発信を行う。

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7,216</td><td>7,216</td><td>5,772</td><td>1,444</td><td></td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,216	7,216	5,772	1,444	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,216	7,216	5,772	1,444											
読谷村 7,216千円 → 委託料 7,216千円 → FMよみたん 7,216千円 (番組制作・放送及びチラシ制作・配布 にかかる委託業務)														

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○県内コミュニティ放送局3社からの見積徴集により、読谷村でコミュニティFMを運営するFMよみたんを支出先を選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○村内事業者を選定した結果、村内の様々な情報を適正なタイミングで発信できたと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業目的に応じて適正に定められている。

市町村名	読谷村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	景観形成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部署名	建設整備部 都市計画課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	本村の景観資源について認識し、景観法に基づく景観計画のもと、地域性にあった景観づくりの方針を明らかにし、良好な景観づくりを推進するため、景観形成重点地区について景観地区運用マニュアル作成、方策検討を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,014	5,397	3,885	3,553	4,255
		(b) 予算現額	2,814	5,040	3,885	3,553	4,104
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 200	▲ 357	0	0	▲ 151
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	2,814	5,040	3,885	3,553	4,104
	B. 執行済額		2,814	5,040	3,672	3,348	4,104
	うち交付金充当額		2,251	4,032	2,937	2,678	3,283
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	94.5%	94.2%	100.0%
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。不要額については、指名競争入札による入札残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	(座喜味城跡周辺地区) 景観地区運用マニュアル概要版作成	目標	景観地区運用マニュアル概要版の作成	()	()	()	
		実績	景観地区運用マニュアル概要版の作成				
	(景観形成重点地区4エリア) 景観形成重点地区(座喜味城跡歴史・文化環境・景観保全エリアを除く)における方策検討及びヒアリング	目標	景観形成重点地区における方策検討及びヒアリングの実施	()	()	()	
		実績	景観形成重点地区における方策検討及びヒアリングの実施				
達成状況説明	座喜味城跡周辺地区については、昨年度作成した景観地区運用マニュアルを基に、村民や業者への周知を目的とした景観地区運用マニュアル概要版の検討を行うことができた。 景観形成重点地区においては、16の関係自治体にヒアリングを行い、今後の景観形成のための方策の検討を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	(座喜味城跡周辺地区) 景観地区運用マニュアル概要版の作成完了	目標	()	景観地区運用マニュアル概要版の作成完了	()	()	()
		実績		景観地区運用マニュアル概要版の作成完了			
	(景観形成重点地区) 景観形成重点地区における景観保全手法の選定	目標	()	景観形成重点地区における景観保全手法の選定	()	()	()
		実績		景観形成重点地区における景観保全手法の選定			
	進捗状況説明	座喜味城跡周辺地区については、昨年度作成した景観地区運用マニュアルを基に、村民や業者への周知を目的とした景観地区運用マニュアル概要版の作成が完了した。その結果、景観地区の内容についてわかりやすく説明することが可能になり目標を達成した。 景観形成重点地区においては、16の関係自治体にヒアリングを行うことで目標を達成した。今後の景観形成のための方策の検討を行い、当地区において保全や改善が望まれている景観資源を明らかにし、それらに対する方策を検討することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今年度の取り組みで、作成した資料を活用し、景観地区についての周知を図り適切な運用を行う必要がある。 景観形成重点地区については、近年開発圧力が強まっている中で、保全・改善すべき景観資源を明らかにすることができた。今後は、それらの景観資源を保全・改善していくための方策を策定していく必要がある。	今年度の取組で作成した景観地区運用マニュアル概要版等を積極的に活用し、住民等に対して周知の徹底と景観地区についての理解の促進を図る。 景観形成重点地区について、今年度は自治会長を中心にヒアリングを行ったが、今後は地域住民等の意見も聴取し、景観形成を進めていく必要がある。
今後の取り組み方針		
今年度検討を行った景観形成重点地区において、保全・改善していく必要があると思われる景観資源が多岐にわたっており、優先的に景観形成のための取り組みを行うべき地域の選定を検討していく。周知については、窓口対応の中で情報提供し、景観地区運用マニュアル概要版の配布などを通して取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>4,104</td><td>4,104</td><td>3,283</td><td>821</td><td></td></tr> </table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	4,104	4,104	3,283	821	
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
4,104	4,104	3,283	821											
読谷村 4,104千円 → 委託料 4,104千円 → 昭和株式会社沖縄支社 4,104千円 〔平成28年度読谷村景観地区指定 方策検討調査委託業務〕														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受託事業者は指名競争入札により、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不要額は指名競争入札による入札残であり、事業費の約5%であったことから、適切な規模であったと考える。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	残波岬いこいの広場機能強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
担当部課名	ゆたさむら推進部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25年度～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄ブランドの確立	
事業内容	施設利用者の増加を目的として、残波岬いこいの広場に設置されている東屋の機能強化(椅子・テーブルの設置、壁の増設)工事を実施する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,935		1,124	21,510	
		(b) 予算現額	4,935		630	16,846	
		(c) 増減額 (b-a)	0		▲ 494	▲ 4,664	
		(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)		4,935		630	16,846	
	B. 執行済額		4,305		496	16,846	
	うち交付金充当額		3,444		397	13,476	
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		87.2%		78.7%	100.0%	
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。 不要額については、指名競争入札による入札残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
				28年度	29年度	30年度	31年度
	椅子・テーブルの設置	目 標	(実施)	()	()	()	()
		実 績	実施				
	壁の増設	目 標	(実施)	()	()	()	()
		実 績	実施				
達成状況説明	残波いこいの広場に12箇所ある東屋にテーブルセット(11箇所)の設置と目隠し壁(12箇所)の工事を実施することで、施設の利便性が高まった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	機能強化工事の完了	目 標	()	(完了)	()	()	()
		実 績		完了			
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	工事を完了し、目標を達成した。 本事業を実施することで、施設の利便性が高まり、それによって利用者の満足度を高めることができ、利用者増加が見込まれる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	当施設はバーベキューなどのレジャーを楽しんだり、夕日を眺めたり癒しのスポットとなるための東屋が設置されているが、椅子やテーブルが設置されていない。また壁がなく中が丸見えであったため、利便性の高い施設とは言いがたかった。本事業を実施することで、施設の利便性が高まった。	本事業が完了したことにより、椅子・テーブル、目隠し壁が設置され、施設の利便性が高まり、利用者の増加が見込まれる。今後は施設の管理者と共に施設周辺の巡回を行うなど、適正な管理・運営を行っていかねばならない。
今後の取り組み方針		
本事業を実施したことで、今後さらに利用者が増加するよう、施設の管理者と共に適正な管理・運営を行っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16,846</td><td>16,846</td><td>13,476</td><td>3,369</td><td></td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	16,846	16,846	13,476	3,369	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
16,846	16,846	13,476	3,369											
読谷村 16,846千円 備品購費入費 2,590千円 株式会社 ジムキ文明 2,590千円 椅子・テーブル購入費 工事請負費 14,256千円 株式会社 沖秀建設 14,256千円 壁の増設工事														
資金使途の流れ、費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算額は見積書等で必要最低限に抑えたので、適正と考える。 ○費目、使途については現場確認及び書類で検査を実施しており、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	(仮称)読谷村パークゴルフ場整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(ア)	
担当部署名	建設整備部 都市計画課	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立		
事業内容	平成24年度に策定された第2次読谷補助飛行場跡地村民センター地区跡地利用計画にて示された(仮称)読谷村パークゴルフ場を整備し、全国からパークゴルフ愛好者を誘客することにより、観光振興を図ると同時に、地域住民の体力増進、高齢者の生きがいの場づくり、駐留軍用地跡地利用に資するため、実施設計を行った。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a)当初予算額	4,546	27,598			
		(b)予算現額	4,546	18,644			
		(c)増減額(b-a)	0	▲ 8,954			
		(d)繰越額	0	0			
		A. 計(b+d)	4,546	18,644			
	B. 執行済額		4,212	18,644			
	うち交付金充当額		3,369	14,915			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		92.7%	100.0%			
予算の状況の説明		当初予算は概算金額で計画を行った結果、予定していた金額よりも低く抑えることができた。計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	(仮称)読谷村パークゴルフ場の実施設計の実施	目 標	(基本設計の実施)	(実施設計の実施)	()	()	
		実 績	基本設計の実施	実施設計の実施			
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	(仮称)読谷村パークゴルフ場の実施設計、建築設計業務において、施設の規模決定及び詳細設計等の成果があり、本工事に向けて条件整備が整った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	(仮称)読谷村パークゴルフ場の整備に向けた実施設計の完了	目 標	()	(基本設計)	(実施設計完了)	()	()
		実 績		基本設計完了	実施設計完了		
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	(仮称)読谷村パークゴルフ場の実施設計業務において、施設の規模決定及び設計図等を実施設計で完了し目標を達成できた。今後、この報告書を基に、土木工事や建築工事を実施し、跡地利用を進める。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今年度の取組でパークゴルフ場の整備に向けた実施設計等の報告書を完成することができた。 当初平成29年度工事完了、平成30年度の供用開始を予定していたが、実施設計を策定の際に、工期の設定が適正であるか検討する必要が生じた。	完成した実施設計書を基に、土木工事や建築工事を計画的に進め、供用開始に向けた取組を進める。 工期については、芝の養生期間や予算の平準化を踏まえた設定が望まれる。
今後の取り組み方針		
芝の養生期間や予算の平準化を踏まえ、(仮称)読谷村パークゴルフ場整備工事(土木工事)を平成29年度、建築工事を平成30年度事業として行う予定である。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>18,644</td><td>18,644</td><td>14,914</td><td>3,730</td><td></td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	18,644	18,644	14,914	3,730	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
18,644	18,644	14,914	3,730											
読谷村 18,644千円 → 委託料 18,644千円 → 株式会社大洋土木コンサルタント 11,734千円 (仮称)読谷村パークゴルフ場実施設計委託業務 読谷村 18,644千円 → 委託料 18,644千円 → 有限会社アイ・エイチ・エー設計 6,910千円 (仮称)読谷村パークゴルフ場建築設計委託業務														
資金使途の流れ、点検・評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札方式で選定しており、妥当であったと考えている。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	△当初予算計上時に概算金額であったため、執行額との乖離が生じた。											
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑦	スポーツコンベンション誘致促進事業(設備等強化事業)		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア			
担当部署名	読谷村教育委員会 生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成26～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)			
事業内容	体育施設における利用者のニーズが高い設備等を設置し、利便性の向上を図るとともに、スポーツコンベンションの誘致促進に寄与する。							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	12,680			20,280		
		(b) 予算現額	9,218			21,039		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 3,462			759		
		(d) 繰越額						
		A. 計 (b+d)	9,218			21,039		
	B. 執行済額		9,218			21,039		
	うち交付金充当額		7,374			16,830		
	次年度繰越額							
	執行率 (%) (B/A)		100.0%			100.0%		
予算の状況の説明		購入備品の規格変更を行った為、当初予算額と実績に差額が生じているが、他事業の実績残の流用を行い対応を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	スポーツコンベンションに係る設備等発注	目 標	(設備等発注)	()	(設備等発注)	()		
		実 績	設備等発注		設備等発注			
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
達成状況説明	人工芝については、年末に納品を行っている為サッカーキャンプ(サガン鳥栖)時に活用を行った。ラグビーポールについては、3月末に設置工事が完了した為、活用についてはこれからとなる。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
	スポーツコンベンションに係わる設備等設置完了	目 標	()	(設備等設置)	()	(設備設置完了)	()	
		実 績		設備等設置完了		設備等設置完了		
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗状況説明	予定設備等の設置について全て完了し、目標を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	スポーツコンベンションの誘致を進めているが、設備等が充実していなかった。本事業で利用者のニーズが高い設備等(人工芝・台車・人工芝保管台・ラグビーボール・防護マット)を設置したことによりスポーツコンベンション誘致に対する対応力が増した。	整備を行った備品等のメンテナンスを適切に行い長期間で運用できれば、キャンプの実施を行っている団体(チーム)への長期的なサービスの維持につながりキャンプ数の増加等へつながると考える為、長期的な運用及び維持管理を行うことで、効率の向上へつながると考えている。
今後の取り組み方針		
スポーツキャンプ(プロ、事業団等)の誘致を図るとともに、各種大会で活用できるよう設備等のメンテナンスを適切に行い維持管理に努める。また、読谷村の認知度を上げることで、多くの種目や団体等のキャンプ数の増加等に繋がることから、本事業で購入した設備等を広く広報等を行い周知できるように努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>21,039</td><td>21,039</td><td>16,830</td><td>4,209</td><td></td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	21,039	21,039	16,830	4,209	
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
21,039	21,039	16,830	4,209											
読谷村 21,039千円 備品購入費 21,039千円 スポーツプラザAP 21,039千円 設備等設置 人工芝・台車・人工芝保管台 防護マット(文字入れ含む) ラグビーボール														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。 ○予算規模は適性な規模であるとする。 ○費目、使途については検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑧	公衆無線LAN設置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部署名	ゆたさむら推進部 企画政策課	事業実施(予定)年度	平成28~29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
						Ⅲ-1-(1)		
事業内容	村内観光地周辺に無料公衆無線LAN環境を構築し、観光客が情報を受信および発信しやすい環境を整えることで、観光振興に寄与する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	12,420					
		(b)予算現額	13,954					
		(c)増減額(b-a)	1,534					
		(d)繰越額	—					
		A. 計(b+d)	13,954					
	B. 執行済額		6,351					
	うち交付金充当額		5,080					
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		45.5%					
予算の状況の説明		不用額については、委託費の入札残である。 計画通りの箇所を設置しているが、適正な入札を行った結果、予定していた機器とは異なる機器での構成となった。落札された機器構成で計画通りの環境構築が可能であることを確認した上で契約し、不用額が生じることとなった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度		
	無線LANアクセスポイントの設置委託(2箇所)	目標	(2箇所)	()	()	()		
		実績	2箇所					
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	当初予定していた2箇所に公衆無線LANアクセスポイントを設置し、観光地にてWi-Fiが利用できるよう整備を行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)	
	無線LANアクセスポイントの設置完了(2箇所)	目標	()	無線LANアクセスポイント設置完了	()	()	()	
		実績		無線LANアクセスポイント設置完了				
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()	
		実績						
	進捗状況説明	無線LANアクセスポイントの設置を完了したことで、目標を達成した。 業務委託後に、2箇所においてWi-Fiの電波調査を行い、Wi-Fiが利用できることの確認を行った。 また、Wi-Fi整備が3月下旬に完了したため、利用については翌年度以降になることから観光客等への周知を行う。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) 近年、公衆無線LANは急速に普及してきているが、村内には座喜味城跡や残波岬といった多くの観光地や、プロスポーツキャンプといった観光イベントがあるものの、公衆無線LAN整備が遅れている。	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) 今年度は、プロスポーツキャンプが行われる残波岬ボールパーク周辺と平和の森球場周辺の2箇所においてWi-Fi整備を完了した。翌年度以降は、その他の観光地においても整備を行い、多くの観光客に利用してもらう。
	今後の取り組み方針 村内観光地への無線LANアクセスポイント設置箇所を増やし、村内どの観光地を訪れても情報の発信や受信ができるよう整備し、本村の観光振興を図る。また、Wi-Fi利用に向けての周知も行っていきたい。	

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,351	6,351	5,080	1,271	

読谷村

6,351千円

→

委託料

6,351千円

→

株式会社国際システム

6,351千円

(

公衆無線LAN整備委託

)

資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○執行率が50%以下となっており適正とは言い難いため、次回においては、適正な範囲で事業が行えるよう心掛けたい。機器の電波状況等もある程度把握できたため、委託業者と綿密に調整などを行っていく。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については、精査・検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑨ 読谷村地域振興センター機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ア		
担当部署	ゆたさむら推進部 企画政策課		事業実施(予定)年度	平成28～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立	
事業内容	読谷村の観光振興を担う施設である、読谷村地域振興センターの機能を強化し、更なる観光振興を図る。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,899				
		(b) 予算現額	8,899				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	8,899				
	B. 執行済額		8,410				
	うち交付金充当額		6,728				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		94.5%				
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
				28年度	29年度	30年度	31年度
	読谷村PR映像コンテンツ制作	目 標	(制作)	()	()		
		実 績	制作				
	上映機器・音響設備の設置	目 標	(設備の設置)	()	()		
		実 績	設備の設置				
	隣接施設とのバリアーの設置	目 標	(設置工事の実施)	()	()		
		実 績	設置工事の実施				
	チャレンジブース廊下空調設計の実施	目 標	(設計の実施)	()	()		
		実 績	設計の実施				
達成状況説明	読谷村PRのための映像コンテンツを文化・自然等の各種50本作成した。また、その映像を上映するための機器設置を行った。 2F大会議室の利用促進のため、音響設備の設置を行った。 隣接施設との境界へバリアーの設置工事を行った。 チャレンジブース廊下空調の設計を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	読谷村PR映像コンテンツ制作	目 標	()	(制作完了)	()	()	()
		実 績		制作完了			
	上映機器・音響設備の設置	目 標	()	(設置完了)	()	()	()
		実 績		設置完了			
	隣接施設とのバリアーの設置	目 標	()	(設置完了)	()	()	()
		実 績		設置完了			
	チャレンジブース廊下空調設計の実施	目 標	()	(設計完了)	()	()	()
		実 績		設計完了			
	進捗状況説明	読谷村PRのための映像コンテンツを文化・自然等の各種50本の制作が完了し、その映像を上映するための機器設置が完了した。 2F大会議室の利用促進のため、音響設備の設置が完了した。 隣接施設との境界へバリアーの設置工事を行い、設置が完了した。 チャレンジブース廊下空調の設計が完了した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	年間利用者数168,000人を目標としているが、大会議室に、音響・映像機器が設置されていなかった。夜間21:00まで施設利用が可能だが、隣接施設閉館時に駐車場の利用ができない問題が発生していた。また、チャレンジブースの廊下部分については、施設利用者の休憩所となっているが、空調設備が無く、利用者より夏場の利用ができないと意見があった。そのため、本事業で利用者が利用しやすい環境づくりを進めるため、設備等の設置が急務であった。	本事業で整備した設備等を、より多くの方へ利用してもらえるよう広くPRする必要がある。
今後の取り組み方針		
各入居施設及び会議室等の貸出施設、イベント時の利用者数の調査を行うとともに、本事業で整備した設備等を活用してもらえるようにHPやSNS等により施設利用の案内を広くPRし、魅力を発信できるように努める。 チャレンジブース廊下空調設計が完了したので、平成29年度に空調機器設置を進めていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		8,410	8,410	6,728
				市町村負担金
				1,682
				交付対象外経費
読谷村 8,410千円 委託料 5,692千円 株式会社FMよみたん 5,400千円 株式会社ワールド設計 292千円 PR映像コンテンツ制作 チャレンジブース廊下空調設計 工事請負費 1,015千円 有限会社たまたつ 1,015千円 隣接施設とのバリカー設置工事 備品購入費 1,703千円 株式会社ジムキ文明堂 507千円 株式会社沖縄科学AVセンター 799千円 株式会社沖縄科学AVセンター 396千円 上映機器購入 音響機器購入 映像機器購入				
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者の選定については随意契約を採用したが、業務の性格と内容を勘案した上で選定しているため妥当であったと考えている。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算額は、見積書等で必要最小限に抑えたので、適正な規模である。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的に即し、適正であると考えている。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	読谷村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	小中学校情報教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	島しょ県であるハンディを克服し、国際性豊かな人材育成と情報教育を活用した学力向上への環境を整えるため、読谷村内小中学校に情報教育支援員を配置する。 平成25年度で導入した電子黒板等ICT機器を活用しての授業を展開するために、教員・生徒への支援を行う。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,562	4,200	6,475	6,224	7,100
		(b) 予算現額	1,562	4,200	6,475	6,224	7,100
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	—				
	A. 計 (b+d)		1,562	4,200	6,475	6,224	7,100
	B. 執行済額		1,144	4,159	5,939	6,224	6,508
	うち交付金充当額		915	3,327	4,751	4,979	5,206
	次年度繰越額		0	0	0		0
	執行率 (%) (B/A)		73.2%	99.0%	91.7%	100.0%	91.7%
予算の状況の説明		当初の計画通り予算を適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	情報教育支援員配置 小学校(5校):2名	目 標	(小学校1名)	(小学校2名)	(小学校2名)	(小学校2名)	
		実 績	小学校1名	小学校2名	小学校2名	小学校2名	
	情報教育支援員配置 中学校(2校):1名	目 標	(中学校1名)	(中学校1名)	(中学校1名)	(中学校1名)	
		実 績	中学校1名	中学校1名	中学校1名	中学校1名	
達成状況説明	村内5小学校において2名、村内2中学校において1名の情報教育支援員を配置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (年度)
	情報機器を活用する教員の サポート体制の強化構築	目 標	()	(実施)	(実施)	(実施)	()
		実 績		実施	実施	実施	
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	年間を通し、小中学校に情報教育支援員を配置することで、情報機器を活用する教員のサポート体制の強化構築を行うことができ、目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	中学校2校においては、電子黒板等のICT機器が整備初年度となるため、情報機器の活用についてのサポートがより求められている。	特に中学校において、教員と情報教育支援員との連携を図り、サポート体制を強化する必要がある。
今後の取り組み方針		
今後も継続して情報教育支援員の配置を行い、サポート体制を維持することでICT機器の活用が盛んになり、児童生徒の興味・関心を高める授業展開により学習意欲の向上を図る。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>7,098</td><td>6,508</td><td>5,206</td><td>1,302</td><td>590</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,098	6,508	5,206	1,302	590
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,098	6,508	5,206	1,302	590										
読谷村 6,508千円 報酬 6,425千円 情報教育支援員 6,425千円 旅費 83千円 情報教育支援員 83千円 読谷村負担分590千円 (対象外経費)														
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○読谷村嘱託職員の任用等に関する規則により採用しており、支出先の選定については妥当である。 ○読谷村嘱託職員の任用等に関する規則、要綱により予算規模を決定しており、適正な規模であった。 ○費目・使途は、支出等に関する書類により確認。適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②		日本語教育支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充	
						Ⅲ-3-(1)	
事業内容	二重国籍や帰国児童等、日本語を習得していない児童に対し、小学校の授業時に通訳や内容説明、他児童との交流の仲介等を行い、小学校生活に順応できるように支援を行う。また、児童の保護者に対しても学校との連絡調整の場(家庭訪問・三者面談・各通知の英訳)で支援を行う。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,136	4,219	4,314	4,065	4,561
		(b) 予算現額	2,136	2,999	4,314	4,065	3,961
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,220	0	0	▲ 600
		(d) 繰越額	—				
	A. 計 (b+d)		2,136	2,999	4,314	4,065	3,961
	B. 執行済額		2,135	2,898	3,768	3,760	3,498
	うち交付金充当額		1,708	2,318	3,014	3,008	2,798
	次年度繰越額		0	0	0		0
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	96.6%	87.3%	92.5%	88.3%
予算の状況の説明		人材を確保できず日本語教育支援員の未配置期間があった為、予算減額。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	日本語教育支援員配置 小学校(5校):3名	目 標	(2名)	(2名)	(3名)	(3名)	
		実 績	2名	3名	3名	3名	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	村内小学校5校中3校に各1名日本語教育支援員を配置し、対象児童に対して小学校生活に順応できるように支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (年度)
	要支援児童へ柔軟な支援体制の構築	目 標	()	(実施)	(実施)	(実施)	()
		実 績		実施	実施	実施	
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	年間を通し、日本語教育支援員を配置することで、要支援児童へ柔軟な支援体制の構築を行うことができ、それにより日本語習得の向上が図られ、学校生活への順応をサポートすることができ、目標を達成できた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	二重国籍児童や帰国児童または、外国籍のみを保有した児童の編入学が増加している状況であり、学校現場における日本語教育支援員の必要性が年々高まっている	二重国籍児童や帰国児童または、外国籍のみを保有した児童などの対象児童の増加傾向を受け、日本語教育支援員の増員または、現状の短時間勤務(5時間)から勤務時間の見直しが必要である。
今後の取り組み方針		
現状として日本語教育支援員を小学校5校中3校へ配置しているが、対象児童の増加に伴い配置や現状の短時間勤務からの勤務時間の見直しを図ってきたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>3,867</td><td>3,498</td><td>2,798</td><td>700</td><td>370</td></tr> </table> 読谷村 3,498千円 報酬 3,425千円 日本語教育支援員 3名 3,425千円 旅費 73千円 日本語教育支援員 3名 73千円 読谷村負担分370千円 (対象外経費)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,867	3,498	2,798	700	370
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,867	3,498	2,798	700	370										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○読谷村嘱託職員の任用等に関する規則により採用しており、支出先の選定については妥当である。 ○読谷村嘱託職員の任用等に関する規則、要綱により予算規模を決定しており、適正な規模であった。 ○費目・使途は、支出等に関する書類により確認。適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	小中学校学習支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施 (予定)年度	平成26～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	確かな学力を身につける教育の 推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	小中学校において学習に遅れが生じている児童・生徒を対象に、自ら学ぶ意欲を高め、基本的な学習内容を理解し、確かな学力の定着を図るため、授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を配置する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	15,482	14,686	16,143		
		(b) 予算現額	15,482	14,686	16,043		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 100		
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	15,482	14,686	16,043		
	B. 執行済額		14,074	14,089	14,220		
	うち交付金充当額		11,237	11,271	11,376		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		90.9%	95.9%	88.6%		
予算の状況の説明		2月に1名退職したことにより1月分未配置による予算減額。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	学習支援員配置 (小学校5校)	目 標	(5名)	(5名)	(5名)	()	
		実 績	5名	5名	5名		
	学習支援員配置 (中学校2校)	目 標	(2名)	(2名)	(2名)	()	
		実 績	2名	2名	2名		
達成 状 況 説 明	村内小学校5校、中学校2校に各1名ずつ学習支援員の配置を行うことができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
	沖縄県学力到達度調査 正答率 ①小学校3年生 算数:89% ②中学校1年生 数学:56%	目 標	()	(①89% ②56%)	()	()	()
		実 績		①76.9% ②39.7%			
	【参考指標】 ① (参考H26年度 県平均:85.3 本村:88.3) ② (参考H26年度 県平均:56.1 本村:52.4)	目 標	()	()	()	()	()
		実 績		①県平均76.2% ②県平均40.8%			
	進 捗 状 況 説 明	年度によって変動がある調査結果を成果目標に設定してしまったことで指標の数値は達成できなかったが、①については県平均を本村が0.7ポイント上回っており、成果目標の基である県平均を上回る結果は得られている。 ②については、県平均より本村は1.1ポイント下回っているが、中頭地区平均36.8%を上回っているため一定の学力の定着は図ることができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	学習支援員を村立小中学校7校に7名配置し、算数・数学の学習に遅れが生じている児童生徒に対して学習支援を行うことで、上述の通り沖縄県学力到達度調査において小学生で県平均を0.7%上回った。 中学生で県平均を下回ったが、中頭平均を2.9%上回っており、学習支援員の配置による効果が見られることから今後も継続しての事業実施が望ましい。 しかしながら、成果目標として設定した数字は達成できていない現状について分析したところ、当該調査は調査対象者が毎年入れ替わることで、またテスト内容も毎年変化していることを踏まえると、過年度の数値を成果目標と設定することは適当ではないと史料される。	事業内容については今後も継続して実施するが、成果目標は、当年度の沖縄県学力到達度調査において県平均を上回ることと変更する。
今後の取り組み方針		
主として小学校(算数)、中学校(数学)の学習において引き続き事業を継続していくことで、確かな学力の定着を図る。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15,540</td><td>14,220</td><td>11,376</td><td>2,844</td><td>1,320</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	15,540	14,220	11,376	2,844	1,320
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
15,540	14,220	11,376	2,844	1,320										
読谷村 14,220千円 報酬 14,084千円 学習支援員 7名 14,084千円 旅費 136千円 学習支援員 7名 136千円 読谷村負担分1,320千円 (対象外経費)														
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○読谷村嘱託職員の任用等に関する規則により採用しており、支出先の選定については妥当である。 ○読谷村嘱託職員の任用等に関する規則、要綱により予算規模を決定しており、適正な規模であった。 ○費目・使途は、支出等に関する書類により確認。適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-④		特別支援教育支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
担当部課名	教育委員会 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成26~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進		
事業内容	幼稚園・小中学校に在籍し、心身に障害を持つ幼児児童生徒に対し個々に応じた適切な支援を行うため、各校に特別支援教育支援員を配置し支援体制の拡充と質の向上を図る。							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度		
	予算の状況	(a)当初予算額	45,375	45,922	43,773			
		(b)予算現額	45,375	45,922	43,773			
		(c)増減額(b-a)	0	0	0			
		(d)繰越額	—					
		A. 計(b+d)	45,375	45,922	43,773			
	B. 執行済額		39,377	44,914	42,186			
	うち交付金充当額		31,501	33,309	33,749			
	次年度繰越額		0	0	0			
	執行率(%) (B/A)		86.8%	97.8%	96.4%			
予算の状況の説明		当初の計画通り予算を適正に執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	特別支援教育支援員配置 幼稚園(5園):5名	目 標	(5名)	(5名)	(5名)	()		
		実 績	5名	5名	5名			
	特別支援教育支援員配置 小学校(5校):10名	目 標	(10名)	(10名)	(10名)	()		
		実 績	10名	10名	10名			
	特別支援教育支援員配置 中学校(2校):4名	目 標	(4名)	(4名)	(4名)	()		
		実 績	5名	4名	4名			
	特別支援教育専門指導員 2名	目 標	(1名)	(1名)	(2名)	()		
		実 績	1名	1名	2名			
達成状況説明	特別支援教育支援員を幼稚園に各1名ずつ、小学校及び中学校の各校2名ずつ配置し、学校現場において適切な支援を行うことができた。また、特別支援教育専門指導員2名を村教育委員会学校教育課へ配置し、特別支援教育にかかる指導等を行うことができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)			基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	要支援幼児・児童生徒への支援体制の構築	目 標	()	(実施)	(実施)	()	()	
		実 績		実施	実施			
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗状況説明	特別支援教育支援員を配置することで要支援幼児・児童生徒への支援体制の構築を行うことができ、学習・生活面において支援の拡充と質の向上を図ることができ、目標を達成できた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	特別な支援を要する児童生徒の人数が増加傾向にあることから、支援員のニーズが高まっている。	学校現場の実状に合わせニーズに応えられるよう、人員配置及び勤務時間等の見直しを検討していく。
今後の取り組み方針		
困り感のある児童など支援を要する幼児及び児童生徒に引き続ききめ細かい支援を行っていくため、人員配置の見直しを検討するなど実状に合わせた支援員の配置を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象 事業費</td><td>交付金 充当額</td><td>市町村 負担金</td><td>交付対象 外経費</td></tr><tr><td>47,047</td><td>42,186</td><td>33,749</td><td>8,437</td><td>4,860</td></tr></table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	47,047	42,186	33,749	8,437	4,860
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
47,047	42,186	33,749	8,437	4,860										
読谷村 42,186千円 報酬 41,740千円 特別支援教育支援員 21名 41,740千円 旅費 446千円 特別支援教育支援員 21名 446千円 読谷村負担分4,860千円 (対象外経費)														
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○読谷村嘱託職員の任用等に関する規則により採用しており、支出先の選定については妥当である。 ○読谷村嘱託職員の任用等に関する規則、要綱により予算規模を決定しており、適正な規模であった。 ○費目・使途は、支出等に関する書類により確認。適正であった。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤	ICT機能強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進	
			Ⅲ-3-(1)				
事業内容	生徒の学力向上を図るため、電子黒板・デジタル教科書・デジタル教材の充実を図り、ICT機器を活用した教育環境の整備を行う。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	78,764				
		(b) 予算現額	77,687				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,077				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	77,687				
	B. 執行済額		77,576				
	うち交付金充当額		62,061				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		99.9%				
予算の状況の説明		当初の計画通り予算を適正に執行できた。 減額は入札によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	電子黒板整備校数:2中学校	目 標	(中学校2校)	()	()	()	
		実 績	中学校2校				
	デジタル教科書整備校数:2中学校	目 標	(中学校2校)	()	()	()	
		実 績	中学校2校				
	達成状況説明	村内全中学校2校に、デジタル教科書及び電子黒板を整備し、教育環境の充実を図ることができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	中学校の67教室に電子黒板を整備	目 標	()	(67教室に整備)	()	()	()
		実 績		67教室に整備			
	デジタル教科書(8教科)の整備完了	目 標	()	(完了)	()	()	()
		実 績		完了			
	進捗状況説明	中学校2校の67教室へ電子黒板、デジタル教科書(8教科)の整備を完了したことで、目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今回中学校に電磁黒板等を整備することができたことで、すでに整備している小学校も含め、ICT環境の充実を図ることができた。	今後は、情報教育支援員と連携し、ICT機器を十分に活用した授業の展開を進めていく。
今後の取り組み方針		
授業展開において、電子黒板をはじめデジタル教科書などのICT機器の活用により、生徒の興味・関心を高め学習意欲の向上を図り、学力向上につなげる。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
読谷村 77,576千円 備品購入費 77,576千円 株式会社興洋電子 74,304千円 [電子黒板] 中学校2校 誠文堂 3,272千円 [デジタル教科書] 中学校2校 ICT機能強化事業にかかる購入				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
77,576	77,576	62,061	15,515	0
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は指名入札方式で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模については、見積書等で必要最小限に抑えた適正な規模である。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものであるか等、支出等に関する書類により確認、適正であった。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	読谷村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	バス停上屋整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-イ	
担当部署名	建設整備部 都市計画課	事業実施 (予定)年度	平成27～28年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	駐留軍用地跡地の計画的な整備 Ⅲ-8	
事業内容	今業務における対象区域は、嘉手納弾薬庫一部返還跡地沿いであり、今後は大湾東土地区画整理事業が進むことで、当該地区周辺の人口が増加し公共交通機関の利用者も併せて増加すると見込まれることから、強烈な日差しや風雨を避け快適に公共交通機関を利用してもらえるよう、バス停上屋を整備する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,614	38,425			
		(b) 予算現額	2,540	30,780			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 74	▲ 7,645			
		(d) 繰越額	-	-			
		A. 計 (b+d)	2,540	30,780			
	B. 執行済額		2,160	30,780			
	うち交付金充当額		1,728	24,624			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		85%	100.0%			
予算の状況の説明		計画的予算執行に努め業務を執行した。 予算減額について、当初はバス停上屋と併せて設置予定であったバス停標識が沖縄県バス協会との協議の結果、設置取りやめとなったことによる。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	バス停上屋整備工事(4箇所)	目 標	(4箇所)	()	()	()	
		実 績	4箇所				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・バス停上屋の設置(4基)を行った。 ・事業は計画通りに実施された。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	28年度	29年度	29年度	目標値 (年度)
	バス停上屋整備工事(4箇所)	目 標	()	(4箇所)	()	()	()
		実 績		4箇所			
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	関係機関との調整を踏まえバス停上屋の設置工事(4基)を行ったことで、利用者の安全で快適な移動環境の構築が図られ、目標が達成ができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今年度で設置工事を完了し、今後は維持管理を行う。	隣接する読谷村大湾東土地区画整理地区の事業進捗に伴い、今後利用者が増加することが予測されることから、利用者の要望等をふまえた維持管理を行う。
今後の取り組み方針		
バス停上屋の整備工事が完了したことから、バス停周辺の住民及び店舗からの要望等を取り入れることで利用しやすい環境を整えること、また利用状況の把握や破損がないかなどの確認に努め適正な維持管理を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>30,780</td><td>30,780</td><td>24,624</td><td>6,156</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	30,780	30,780	24,624	6,156	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
30,780	30,780	24,624	6,156	0										
読谷村 30,780千円 → 工事請負費 30,780千円 → 有限会社たまたつ 30,780千円 (平成28年度 バス停上屋整備工事)														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	受託事業者は指名競争入札により、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 また予算規模、費目・使途について、積算基準に基づいた設計を行い、工事完了検査においても管理が十分に成されていたことを確認したことから、適正であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限られているか。												

市町村名	読谷村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-②	読谷補助飛行場跡地第2工区事業支援可能性調査事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-イ		
担当部課名	ゆたさむら推進部 農業推進課	事業実施(予定)年度	平成28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地の計画的な整備 Ⅲ-8		
事業内容	読谷補助飛行場の跡地利用を促進するため、読谷補助飛行場跡地第2工区における、農業的跡地利用の事業可能性調査を実施する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,400					
		(b)予算現額	4,860					
		(c)増減額(b-a)	▲ 540					
		(d)繰越額						
		A. 計(b+d)	4,860					
	B. 執行済額		4,860					
	うち交付金充当額		3,888					
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		不用額は入札残であり、12月補正にて減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	事業可能性調査(動向調査、事例調査等)を実施	目 標	(実施)	()	()	()	()	
		実 績	実施					
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
達成状況説明	沖縄県が実施する畑地帯総合整備事業の区域外である当地区について、本事業により事業可能性調査(クラインガルテンや市民農園等の先進事例調査等)を行い、効果的な農業的利用の方策を検証した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)			基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	農業的跡地利用の事業可能性調査の完了	目 標	()	(完了)	()	()	()	()
		実 績		完了				
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()	()
		実 績						
	進捗状況説明	事業可能性調査を完了し、目標を達成した。 ①農業施設用地を活用した6次産業化の可能性、②農的利用の可能性、③暫定農地利用の可能性の3つのカテゴリは、個々に独立したものではなく、それぞれが関係性をもって展開されるものであることから、本報告書に基づき今後の第2工区における事業化の検討・実施することで持続可能な地域振興と戦後処理に資すると思われる。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	第2工区については、道路・排水路等の基盤整備が未整備で約37haに及ぶ広大な農振農用地の土地利用に当たっての開発条件が整うのは、長期の期間を要することから維持管理する事が当面の課題である。	広大な土地の維持管理を行うには、行政、農業生産法人、NPO等の関係者がそれぞれの立ち位置から主体的に関わる事が重要である。
今後の取り組み方針 ①農業施設用地を活用した6次産業化の可能性、②農的利用の可能性、③暫定農地利用の可能性を本報告書に基づき、農業生産法人は当該地区における土地活用の中心的役割を担い、NPO法人は整備に長期間要する用地の調査・研究・維持管理を担い、行政においては法改正や新たな施策に関わる情報について検討・情報提供を行い、3者が主体的に関わり検討していくことで、持続可能な地域振興と戦後処理に資するものとする。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>4,860</td><td>4,860</td><td>3,888</td><td>972</td><td></td></tr> </table> 読谷村 4,860千円 → 委託料 4,860千円 → 株式会社沖縄計画機構 4,860千円 〔 読谷補助飛行場跡地第2工区事業支援可能性調査委託 〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,860	4,860	3,888	972	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,860	4,860	3,888	972											
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-③	楚辺通信所跡課題地区跡地利用調査事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-イ		
担当部署名	建設整備部 都市計画課	事業実施(予定)年度	平成28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地の計画的な整備 Ⅲ-⑧		
事業内容	平成24年度作成の楚辺通信所跡地区計画策定調査業務報告書にて示された課題地区の跡地利用促進を図るため、基本調査を実施する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	9,105					
		(b)予算現額	8,640					
		(c)増減額(b-a)	▲465					
		(d)繰越額	—					
		A.計(b+d)	8,640					
	B.執行済額		8,640					
	うち交付金充当額		6,912					
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		計画的な予算執行につとめ、業務を遂行した。▲465千円については、指名競争入札による残です。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	楚辺通信所跡課題地区跡地利用基本調査の実施(需要動向調査、土地利用意向調査、基本構想)	目標	(実施)	()	()	()	()	
		実績	実施					
		目標	()	()	()	()	()	
		実績						
達成状況説明	需要動向調査、土地利用意向調査を行い、当該基本調査を実施することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況			基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)	
	基本調査の完了	目標	()	(完了)	()	()	()	
		実績		完了				
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()	
		実績						
	進捗状況説明	課題地区の跡地利用促進を図るための基本調査を実施し、完了したことで目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・地権者へのアンケート調査や勉強会を行い、地主会としても跡地の土地利用の方向性が決まりつつあり、地区ごとの地主会を立ち上げ、整備事業化の実現にむけた課題の整理を行い、検討していきたいと話しがまとまった。今後の跡地の土地利用に向けた調査を行うことができた。	・アンケート調査や勉強会を行ったが、個人個人の土地の利用形態は、さまざまである。今後、課題の整理(整備メニューの模索等)を行い、整備の事業化にむけた土地利用の方向性を地主会とともに決めていかなければならない。
今後の取り組み方針		
・課題の整理、今後の方針について、課題地区の新しい地主会を立ち上げ、地区ごとの方針を決めていきたいと地主会との話しあいでも決まった。今後は、整備実現にむけた補助メニューを模索し、地主会と連携しながらすすめていきたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8,640</td><td>8,640</td><td>6,912</td><td>1,728</td><td></td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	8,640	8,640	6,912	1,728	
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
8,640	8,640	6,912	1,728											
読谷村 8,640千円 → 委託料 8,640千円 → 玉野総合コンサルタン ト 株式会社 8,640千円 〔 楚辺通信所跡地課題地区跡地利用基本調査業務 〕														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は指名競争入札を行い、最低価格事業者へ発注したので妥当と考える。 ○予算額は、見積書等で必要最小限に抑えたので、適正な規模と考える。 ○費目・使途は、書類等において確認適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村							
平成 2 8 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-④	トリイ通信施設跡地「大木・大湾地区」跡地利用基本調査業務			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア		
担当部署名	ゆたさむら推進部 企画調整係	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	早期の事業着手に向けた取組			
事業内容	トリイ通信施設跡地の跡地利用を図るため、トリイ通信施設跡地「大木・大湾地区」の跡地利用手法を検討するための基本調査(現地踏査、基本構想、合意形成活動)を実施する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	12,496					
		(b)予算現額	11,772					
		(c)増減額(b-a)	▲ 724					
		(d)繰越額						
		A. 計(b+d)	11,772					
	B. 執行済額		11,772					
	うち交付金充当額		9,417					
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		計画通り予算の執行を行った。▲724千円は、指名競争入札による入札残である。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度		
	トリイ通信施設跡地「大木・大湾地区」の跡地利用手法を検討するための基本調査を実施	目 標	(基本調査報告書の作成)	()	()	()		
		実 績	基本調査報告書の作成					
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
達成状況説明	トリイ通信施設跡地の跡地利用を図るため、トリイ通信施設跡地「大木・大湾地区」の跡地利用手法を検討するための基本調査(現地踏査、基本構想、合意形成活動)を実施し、当該地区におけるまちづくり基本構想を策定した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)	
	基本調査の完了	目 標	()	(完了)	()	()	()	
		実 績		完了				
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗状況説明	トリイ通信施設跡地「大木・大湾地区」跡地利用基本調査い、成果目標を達成した。その結果、土地区画整理事業として、土地利用計画案の方向性が明確になった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	土地区画整理等の面的整備を円滑に推進するためには、地権者の合意形成は重要な課題であり、大木・大湾地区における都市計画の計画提案においても、同様である。 また、土地区画整理に係る事業計画の推進に向け、地権者と区画整理事業内容について、調整協議が必要となる。	地主会と読谷村で折衝を行い、事業推進に取り組む。 その際、事例や軍用地変換後の土地活用スケジュール等の資料を用いて、事業に対する理解を促進するよう注意する。
今後の取り組み方針		
今後、地主会に対し、土地区画整理事業地内の地権者の同意取り付けや都市計画提案に向けた支援を行う。 その際、事例やスケジュール等を分かりやすく説明することに注意する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
読谷村 11,772千円 → 委託料 11,772千円 → 株式会社 オオバ 沖縄支店 11,772千円 トリエ通信施設跡地「大木・大湾地区」跡地利用 基本調査に係る業務				
総事業費		交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金
11,772		11,772	9,417	2,355
交付対象 外経費				
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託事業者は指名競争入札で選定しており、その選定方法は妥当であったと思慮する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○不用額は指名競争入札による入札残であり、適切な規模であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であったと認識している。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	読谷村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-⑤ 読谷補助飛行場跡地村民センター地区植栽・緑化プログラム策定事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(13)-イ			
担当部課名	建設整備部 都市計画課		事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地の計画的な整備 Ⅲ-8		
事業内容	駐留軍用地跡地である村民センター地区周辺の利用を推進するため、植栽・緑化プログラムの策定を行う。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	14,181					
		(b)予算現額	14,181					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額	0					
		A. 計(b+d)	14,181					
	B. 執行済額		14,094					
	うち交付金充当額		11,275					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		99.4%					
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。 不用額については、指名競争入札による入札残である。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	植栽・緑化プログラムの策定(現地調査・土壌調査・供給調査・緑化実施計画の作成)実施	目標	(植栽・緑化プログラムの策定)	()	()	()	()	
		実績	植栽・緑化プログラムの策定					
		目標	()	()	()	()	()	
		実績						
達成状況説明	村民センター地区周辺の緑化を実施するにあたり、対象地区の緑化に関する関連計画の整理、現地環境の把握及び課題の整理等を行い、地区全体の緑化イメージ等、指針となる植栽・緑化プログラムの策定を行うことができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)	
	植栽・緑化プログラムの策定完了	目標	()	(植栽・緑化プログラムの策定)	()	()	()	
		実績		植栽・緑化プログラムの策定				
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()	
		実績						
	進捗状況説明	村民センター地区周辺の緑化を実施するにあたり、対象地区の緑化に関する関連計画の整理、現地環境の把握及び課題の整理等を行い、地区全体の緑化イメージ等、指針となる植栽・緑化プログラムの策定を完了したことで目標を達成できた。 今後緑化等に関連する施設整備等への基本となることで、跡地利用の推進を図る。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	植樹環境の厳しい村民センター地区の植栽・緑化プログラムを策定したことで、今後の緑化等に関連する施設整備等への基本となる指針ができた。今後村民センター地区の整備を進めるにあたり、プログラムを基にした整備ができるよう関係部署(陸上競技場や野球場等を管理している生涯学習課や役場庁舎管理の総務課及び健康増進センター管理の健康推進課)との連携を図っていかなければならない。	策定した植栽・緑化プログラムを関係部署に情報提供し、意見交換を行った上で整備を進めていくことが重要である。
今後の取り組み方針		
策定した植栽・緑化プログラムを関係部署に対し、報告書を共有するなどの連携を図り、本村の中心地である村民センター地区の緑化計画を進める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
14,094	14,094	11,275	2,819	

読谷村
14,094千円

→

委託料
14,094千円

→

株式会社 緑の風景計画
14,094千円

〔 村民センター地区植栽・緑化プログラム策定業務 〕

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札方式で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は指名競争入札による入札残であり、適切な規模であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-⑥	読谷補助飛行場跡地民有地部分「北地区」廃棄物処理事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-(イ)		
担当部署名	建設整備部 都市計画課	事業実施 (予定)年度	平成28年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	駐留軍用地跡地の計画的な整備 Ⅲ-⑧		
事業内容	読谷補助飛行場跡地民有地部分「北地区」は、平成23年度に行った不発弾探査により、土中から廃棄物が出土した。これにより、読谷補助飛行場の跡地利用が阻害されており、北地区の地区計画による跡地利用を促進するため、廃棄物処理を行う。							
実施方法								
予算額・執行額 【単位：千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	59,364					
		(b) 予算現額	42,865					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 16,499					
		(d) 繰越額	—					
		A. 計 (b+d)	42,865					
	B. 執行済額		42,865					
	うち交付金充当額		34,292					
	次年度繰越額							
	執行率 (%) (B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		計画的な予算執行につとめ、業務を遂行した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度		
	産業廃棄物処理(がれき類、ゴム類、金属類等)	目 標	(実施)	()	()	()		
		実 績	実施					
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
達成 状況 説明	読谷補助飛行場跡地民有地部分「北地区」の廃棄物処理をすべて完了した。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)	
	産業廃棄物処理	目 標	()	(7,236㎡)	()	()	()	
		実 績		5,246㎡				
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗 状況 説明	事業を実施するにあたり、廃棄物の選別をおこなった結果、目標値よりも減となっているのは、廃棄物の量が当初の予定よりも少なかったためである。そのため数量に変動が生じた。廃棄物処理は全て完了し、阻害要因を取り除くことができ、跡地利用が促進されることとなり、目標達成となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	平成18年度に返還された当該地区については、平成23年度の不発弾探査の際に不法投棄ゴミが出土し、跡地利用を推進する上で阻害要因となっていた。 今回の事業を実施することにより、当該地区の阻害要因を取り除くことができ、課題を解決することができた。	当該地区の廃棄物処理が完了したことにより、円滑な跡地利用の推進が期待できる。今後は不法投棄等が行われないよう地主会において、管理を行ってもらいながら、跡地利用の整備事業(道路整備)を進めていきたい。
今後の取り組み方針		
今後、地主会と調整を行いながら、当該地区の跡地利用の整備事業(道路整備)を進めていきたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
42,865	42,865	34,292	8,573	

読谷村
42,865千円

→

委託料
42,865千円

→

株式会社 森岡産業
42,865千円

読谷補助飛行場跡地
民有地部分「北地区」
産業廃棄物処理事業

資金 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は指名競争入札を行い、最低価格事業者へ発注したので妥当と考える。 ○予算額は、見積書等で必要最小限に抑えたので、適正な規模と考える。 ○費目・使途は、現場確認及び書類において確認適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-⑦	米軍施設返還に伴う雨水排水増加の 既設水路現況調査及び排水計画策定事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-イ 駐留軍用地跡地の計画的な整備		
担当部署名	建設整備部 施設整備課	事業実施 (予定)年度	平成28～平成29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-8			
事業内容	返還軍用地の跡地利用に伴い発生している道路冠水や床上・床下浸水を解消するため、排水計画策定に向けての調査を実施する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	22,647					
		(b)予算現額	22,140					
		(c)増減額(b-a)	▲ 507					
		(d)繰越額	—					
		A. 計(b+d)	22,140					
	B. 執行済額		22,140					
	うち交付金充当額		17,712					
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		事業計画のとおり実施できた。当初予算額の減額は入札残である。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	・現地調査(既存の断面・排水勾配の調査)の実施 ・基礎資料の作成	目 標	現地調査及び (基礎資料の作 成)	()	()	()	()	
		実 績	現地調査及び基礎資 料の作成完了					
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
達成 状 況 説 明	3級水準点の設置は計画数量設置完了。既設水路の縦断測量、断面計測ともに計画数量通り調査し、基礎資料を作成することができた。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)	
	以下の基礎資料作成を完了 ・水準点測量 ・現地踏査 ・縦断測量 ・断面計測 ・調査図面の作成	目 標	()	(基礎資料 の作成)	()	()	()	
		実 績		基礎資料の作成				
	【参考指標】		目 標	()	()	()	()	
			実 績					
	進 捗 状 況 説 明	村全域の既設管(φ600以上)の縦断測量、断面計測を行ったことで、開渠、暗渠等の細かな分布の資料の報告書の作成ができた。また、3級水準点も計画数量設置完了した。基礎資料の作成を完了したことで、目標を達成することができた。 次年度この基礎資料を活用し雨水排水計画の策定に取り組む。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今年度の業務で、雨水排水計画に関する基礎調査である既設水路の縦断測量、断面計測および3級水準点を設置することができた。また、留意点として既存の排水断面で流下不足となる箇所の対策を検討しなければならない。	今後の工事・調査等による新たなデータ等については、随時資料を更新していく。基礎資料を作成することができたので、流下能力不足となる排水路の対策を検討等を行い、読谷村全体の雨水排水計画の策定に取り組む。
今後の取り組み方針		
今年度の業務の基礎資料を用いて、平成29年度は排水断面の流下能力計算を実施することで、既存の排水断面で流下能力不足となる箇所の対策を検討する。 既存の排水断面で流下能力が不足となる箇所について、断面改修や調整池の検討及び既存の水路を活かした水路バイパス案等の対策を検討し、水害を減少させ良好な生活環境確保を目標とする。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>22,140</td><td>22,140</td><td>17,712</td><td>4,428</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	22,140	22,140	17,712	4,428	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
22,140	22,140	17,712	4,428	0										
読谷村 22,140千円 委託料 22,140千円 株式会社 双葉測量設計 22,140千円 (既設水路現況調査業務)														
資金の流 使途の 点検・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
資金の流 使途の 点検・ 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受託事業者は、指名競争入札を行い、最低入札額提示事業者へ決定し、発注しているので妥当と考える。 ○不要額は入札残であり事業費の5%以内であるので適正規模と考える。 ○費目、使途については清算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	ユンタンザフィールドミュージアム構築事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会 文化振興課	事業実施(予定)年度	平成24～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)	
事業内容	村民の文化的生活の向上や人材育成、地域活性化、観光振興に役立てるため、読谷村の自然・歴史・文化資源等を調査・整理した情報を共有・発信・活用できるように再整理する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,881	6,003	6,504	8,118	12,330
		(b) 予算現額	4,321	5,449	6,504	7,255	11,659
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 560	▲ 554	0	▲ 863	▲ 671
		(d) 繰越額	—				
	A. 計 (b+d)		4,321	5,449	6,504	7,255	11,659
	B. 執行済額		4,188	5,449	5,979	7,255	11,659
	うち交付金充当額		3,350	4,359	4,783	5,804	9,327
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		96.9%	100.0%	91.9%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。 不要額については、指名競争入札による入札残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	自然・歴史・文化資源等の調査:4地区	目 標	(3地区)	(3地区)	(4地区)	(4地区)	
		実 績	3地区	3地区	4地区	4地区	
	文化財ガイドマップ板設置:4カ所	目 標	(3カ所)	(3カ所)	(4カ所)	(4カ所)	
		実 績	3カ所	3カ所	4カ所	4カ所	
	文化財ガイドマップタブロイド版作成:4,000部	目 標	(3000部)	(3000部)	(3000部)	(4000部)	
		実 績	3000部	3000部	3000部	4000部	
	達成状況説明	H28年度は喜名地区、座喜味地区、都屋地区、比謝町地区の4地区において自然・歴史・文化情報等の調査を実施した。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度
自然・歴史・文化資源等の調査完了(4地区) 文化財ガイドマップ板設置(4箇所) 文化財ガイドマップタブロイド版配布・設置		目 標	(0カ所)	(3カ所)	(4カ所)	(4カ所)	()
		実 績		3カ所	4カ所	4カ所	
【参考指標】		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
進捗状況説明		H28年度は喜名地区、座喜味地区、都屋地区、比謝町地区の4地区において、自然・歴史・文化資源等の調査を行い、それぞれの文化財ガイドマップを設置した(合計4箇所)。公共の場に文化財ガイドマップを設置したことによって、地元の方々はもちろん、観光客に文化財情報を提供しやすい環境となった。また、文化財ガイドマップタブロイド版の配布・設置を行ったことで、文化財ガイドマップの周知を行うことができ、当初の目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	まだ文化財ガイドマップを作成していない自治会があるため、それらの自治会の文化財ガイドマップを継続して作成していく。 また、歴史文化遺産を活かした更なる人材育成や地域活性化を持続的に推進するためには、文化財ガイドマップを製作して終わりではなく、製作したガイドマップを活用して、多くの方々が地元や読谷村全域をフィールドミュージアムとして認識できる仕組みづくり(例:地域散策会の実施、地域散策ガイド養成講座の実施)が必要である。	まだ文化財ガイドマップを作成していない自治会の文化財ガイドマップを作成するにあたり、これまで同様地元の方々と協力して進めていく。 また、今年度は座喜味地区において、文化財めぐりを開催し、地元の自然・歴史・文化資源を認識してもらうことができた。今後は他の自治会においても同様に連携し実施していくことで、多くの方々が地元や読谷村全域をフィールドミュージアムとして認識できるように取組を進めていく。
今後の取り組み方針		
まだ文化財ガイドマップを作成していない自治会があるため、それらの自治会の文化財ガイドマップを継続して作成していく。既に作成した自治会においては、それぞれの自治会で文化財めぐりができるように、文化財ガイドマップの周知やガイドの育成などの取組を行っていく。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
読谷村 11,659千円 委託料 6,102千円 需用費 588千円 報償費 4,969千円 (株)アートリンク 光文堂コミュニケーションズI 調査時の話者謝礼 文化財ガイドマップ製作設置委託業務 文化財ガイドマップ配布用リーフレットの印刷 各地区有識者の聞き取り調査時謝礼				
総事業費		交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金
11,659		11,659	9,327	2,332
		交付対象外経費		
資金の 使途の 流れ、 検 査 目 ・ 費 目	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		委託業者は指名競争入札を行い、最低価格提示事業者へ決定し発注したので妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		予算規模は委託業務において入札残が生じたが、委託仕様のとおりの業務を遂行でき適性規模である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	読谷村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	読谷村移民・出稼ぎ調査編集事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会 文化振興課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
事業内容	国内外へ読谷村をアピールし、県外・海外からの観光客の誘客や国際交流を図るため、移民・出稼ぎについて調査・整理し、集めた情報を共有・発信・活用できるようHPを活用して情報発信を行うとともに、多言語の小冊子にまとめる。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	540	6,325	8,443	13,054	16,452
		(b) 予算現額	540	6,325	8,910	13,653	16,007
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	467	599	▲ 445
		(d) 繰越額	—	0	0	0	0
		A. 計 (b+d)	540	6,325	8,910	13,653	16,007
	B. 執行済額		540	6,096	8,858	13,653	16,002
	うち交付金充当額		432	4,876	7,086	10,922	12,801
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	96.4%	99.4%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初予算額から減額した理由は、予定していた調査員が都合により稼働できなくなったことによる報償費の減額や、当初見積額より安価でチケット購入できたことによる旅費の減額。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
				25年度	26年度	27年度	28年度
	・H27年度調査報告書作成	目 標	(作成)	(作成)	(作成)	(作成)	
		実 績	作成	作成	作成	作成	
	・被調査者の調査 アルゼンチン、ハワイ現地調査	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績		実施	実施	実施	
	・記録テープ反訳等の整理	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績	実施	実施	実施	実施	
達成状況説明	・平成27年度の調査報告書を作成した。 ・アルゼンチンとハワイで現地調査(被調査者の調査)を実施した。 ・被調査者に聞き取り調査を行い、それを記録した録音テープの反訳等の整理を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	平成27年度調査報告書の完成	目 標	()	()	(報告書の完成)	()	()
		実 績			報告書の完成		
	南米、米国における移民者の歩みの把握	目 標	()	(現地調査で資料収集)	(現地調査で資料収集)	()	()
		実 績		石垣島、ブラジル、ポリビアの調査を実施	アルゼンチン、ハワイの調査を実施		
	記録テープ反訳等の整理完了(50本)	目 標	()	()	(整理完了(50本))	()	()
		実 績			整理完了(50本)		
	進捗状況説明	「平成27年度調査報告書の完成」、「南米、米国における移民者の歩みの把握」、「記録テープ反訳等の整理完了(50本)」により目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) 被調査者(インフォーマント)の高齢化や体調不良などによって面会できず、調査が困難なことがある。また、調査の中で新たな被調査者も確認されていることから、順次調査していく必要がある。 ハワイでは英語による聞き取りが主であったことから、日本語への翻訳作業を行う必要がある。	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) 戦後に移民した一世でも60歳以上になるなど、高齢化しているため、被調査者の体調をみながら調査を実施していく。また、新たな被調査者への聞き取り調査も鋭意進めていく。 英語の翻訳については、ハワイ在住の研究者などに協力してもらいながら、原稿化作業を進めていく。
	今後の取り組み方針 被調査者と連絡を密に取り合い、丁寧に調査を実施していく。また、翻訳については、移民の状況を把握している在地の研究者などの協力を得ながら、原稿化作業を行っていく。	

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
16,007	16,007	12,806	3,201	0

```

      graph LR
        A[読谷村  
16,007千円] --> B[報償費  
11,069千円]
        A --> C[委託料  
1,868千円]
        A --> D[旅費  
2,991千円]
        A --> E[備品購入費  
79千円]
        B --> B1[調査員14人  
11,069千円]
        B1 --- B2[・インフォーマント調査  
・証言資料の原稿化]
        C --> C1[自分史センター  
1,868千円]
        C1 --- C2[テープ反訳にかかる  
委託業務]
        D --- D1[・アルゼンチン  
・ハワイ  
・関西調査]
        E --- E1[・デジタル写真カメラ  
・デジタルビデオカメラ]
    
```

資金の流れ、点検評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札により、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当だったと考える。 ○予算額は、事業内容に見合って適正規模である。 ○報償費及び旅費については、事業目的達成の観点から必要なものであるとともに、支出等については条例、調査成果及び村史編集要綱に基づき適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③	沖縄語(しまくとぅば)保存継承事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会 文化振興課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
事業内容	沖縄独特の口承文化や歌詞を支えてきた沖縄語の保存継承に寄与するため、生まれ育った地域の沖縄語で伝承されてきた民話や琉歌を調査、整理し、沖縄語に親しめる媒体(絵本やDVD等)を製作し、沖縄語になじみの薄い幼児や児童生徒らに沖縄語の教材を提供する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,576	6,052	6,062	5,900	
		(b) 予算現額	4,267	6,052	5,095	5,017	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 3,309	0	▲ 967	▲ 883	
		(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)		4,267	6,052	5,095	5,017	
	B. 執行済額		4,267	5,001	5,095	5,017	
	うち交付金充当額		3,413	4,000	4,076	4,013	
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	82.6%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		当初予算を減額した理由は、各事業の入札残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	民話調査・整理	目標	(-)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	-	実施	実施	実施	
	民話絵本「読谷山物語(5話)」の発刊	目標	(発刊)	(発刊)	(発刊)	(発刊)	
		実績	発刊	発刊	発刊	発刊	
	民話紙芝居DVD「読谷山物語(5話)」の発刊	目標	(発刊)	(発刊)	(発刊)	(発刊)	
		実績	発刊	発刊	発刊	発刊	
	達成状況説明	民話調査・整理を行い、沖縄語(しまくとぅば)を保存継承するための教材「民話絵本」と「民話紙芝居DVD」を発刊した。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度
村内小中学校等へ配布・活用及びHPで公開		目標	()	(実施)	(実施)	(実施)	()
		実績		実施	実施	実施	
【参考指標】		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明		民話絵本を1,000冊、民話紙芝居DVDを1,000枚を発刊した。製作した民話絵本・民話紙芝居DVDを村内幼稚園や小中学校等へ配布し、HPで公開し成果目標を達成することができた。その結果、児童生徒らがいつでも沖縄語に親しめることが可能となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	平成27年度に計画していた事業は滞りなく完了することができたが、まだまだ教材の種類が少ない。沖縄語保存継承事業が単調とならないためにも民話絵本の数や民話紙芝居DVDの種類を増やしていく必要がある。	本村には伝承されてきた民話がたくさんあり、今後もこの民話を調査整理し、多様な教材を製作することで、より沖縄語(しまくとぅば)の保存継承につながる。
今後の取り組み方針		
各地区の民話を活用した沖縄語(しまくとぅば)教材を製作し、子どもらが沖縄語の魅力に親しめる教材を増やし提供していくことで、沖縄語(しまくとぅば)の保存継承を図っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,017</td><td>5,017</td><td>4,013</td><td>1,004</td><td></td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,017	5,017	4,013	1,004												
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費																					
5,017	5,017	4,013	1,004																						
<table border="1"> <tr> <td rowspan="5">読谷村 5,017千円</td><td>委託料 1,296千円</td><td>株式会社 サンエージェンシー 1,296千円</td><td colspan="2">〔民話紙芝居DVD製作委託業務〕</td></tr> <tr> <td>委託料 350千円</td><td>株式会社 東洋 350千円</td><td colspan="2">〔民話CD製作委託業務〕</td></tr> <tr> <td>印刷製本費 991千円</td><td>株式会社 東洋企画印刷 991千円</td><td colspan="2">〔民話絵本読谷山物語印刷製本業務〕</td></tr> <tr> <td>報酬 1,080千円</td><td>調査員 1,080千円</td><td colspan="2">〔民話の調査(2名)〕</td></tr> <tr> <td>役務費 1,300千円</td><td>執筆者 1,300千円</td><td colspan="2">〔民話絵本と民話紙芝居の台本原稿・原画執筆〕</td></tr> </table>					読谷村 5,017千円	委託料 1,296千円	株式会社 サンエージェンシー 1,296千円	〔民話紙芝居DVD製作委託業務〕		委託料 350千円	株式会社 東洋 350千円	〔民話CD製作委託業務〕		印刷製本費 991千円	株式会社 東洋企画印刷 991千円	〔民話絵本読谷山物語印刷製本業務〕		報酬 1,080千円	調査員 1,080千円	〔民話の調査(2名)〕		役務費 1,300千円	執筆者 1,300千円	〔民話絵本と民話紙芝居の台本原稿・原画執筆〕	
読谷村 5,017千円	委託料 1,296千円	株式会社 サンエージェンシー 1,296千円	〔民話紙芝居DVD製作委託業務〕																						
	委託料 350千円	株式会社 東洋 350千円	〔民話CD製作委託業務〕																						
	印刷製本費 991千円	株式会社 東洋企画印刷 991千円	〔民話絵本読谷山物語印刷製本業務〕																						
	報酬 1,080千円	調査員 1,080千円	〔民話の調査(2名)〕																						
	役務費 1,300千円	執筆者 1,300千円	〔民話絵本と民話紙芝居の台本原稿・原画執筆〕																						
資金の流 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明																						
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は指名競争入札等を行い、最低価格提示事業者へ決定し発注したので妥当と考える。																						
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模は委託業務において入札残が生じたが、委託仕様のとおり業務を遂行でき適性規模である。																						
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。																						
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。																							

市町村名	読谷村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-④	ユンタンザミュージアム建設事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会 文化振興課	事業実施(予定)年度	平成26~29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄文化の源流を確認できる環境 Ⅲ-3-(2)	
事業内容	世界遺産座喜味城跡公園内に新読谷村立歴史民俗資料館(仮称ユンタンザミュージアム)を建設(本館改築と別館機能強化)し、世界遺産ビジターセンターとして機能拡充と強化を図るもので、世界遺産と連携した魅力ある施設を建設し、観光振興・地域振興、文化振興につながる整備を行う。						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
		18,875	64,546	349,307			
		18,875	60,202	344,257			
		0	▲ 4,344	▲ 5,050			
		—					
	B. 執行済額		18,767	58,742	344,257		
	うち交付金充当額		15,013	46,993	275,405		
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		99.4%	97.6%	100.0%		
	予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め業務を遂行した。不用額は入札残等によるものである。				
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	建築工事の実施(延べ床面積:1842.5㎡) 別館機能強化整備の実施(2階600㎡、3階部分600㎡)	目標	(建築工事の実施)	()	()	()	
		実績	建築工事の実施				
	アプローチ広場の実施設計	目標	(実施設計の実施)	()	()	()	
		実績	実施設計の実施				
達成状況説明	H28は、新読谷村立歴史民俗資料館(ユンタンザミュージアム)の建築工事及び別館機能強化、アプローチ広場の実施設計を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	アプローチ広場実施設計書の完成	目標	()	()	(実施設計書の完成)	()	()
		実績			実施設計書の完成		
	【参考指標】 実施設計書の完成	目標	()	(完了)	()	()	()
		実績		完了			
	【参考指標】 H30年の供用開始に向けた事業の着実な実施	目標	()	(実施)	()	()	()
		実績		実施			
	進捗状況説明	「建築物の一部完成(進捗率:40.92%)」、「アプローチ広場実施設計書の完成」により目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	自治会や婦人会等の地域住民、サークル等の地域団体、村内の学校関係者、観光協会や商工会等の関係団体等が、自分たちの施設として愛着をもっていただくために、アプローチ広場の利活用をはじめ、施設及び座喜味城跡等を含む多角的な視点からの整備の在り方に関する検討が必要。	施設や座喜味城跡から村内の史跡や観光地へのフィールドワークの拠点となるような広場のあり方やイベントの開催などの可能性を探る。
今後の取り組み方針		
観光協会をはじめ、各種団体や有識者との意見交換を行い、観光振興、地域振興及び文化振興により魅力ある施設になるよう事業の完了を目指す。		

資金の流れ						
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
		344,257	344,257	275,405	68,852	
読谷村 344,257千円 報酬 2,557千円 旅費 25千円 委託料 15,148千円 使用料及び借料 28,425千円 工事請負費 298,102千円 建築技術嘱託職員 1人 2,557千円 建築技術嘱託職員 1人 25千円 (株)NDアーキテクトン 11,750千円 日通NECロジスティックス(株) 1,022千円 (株)大洋土木コンサルタント 2,376千円 大永建設工業(株) 28,425千円 (株)山中組・(有)有志建設特定建設工事共同企業体 202,198千円 (株)比謝川電気・(有)丸優電気特定建設工事共同企業体 41,958千円 三建設備(株)・(有)読谷電気水道工事社特定建設工事共同企業体 53,946千円 建築技術嘱託職員採用 建築技術嘱託職員採用 工事監理委託業務 引越し委託業務 アプローチ広場実施設計委託業務 仮設プレハブ借料 建築工事 電気設備工事 機械設備工事						
資金の 使途の 流れ、 点検、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目			評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。			○委託及び工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。			○予算規模については執行率は99.0%であり、適正な規模であったと考えている。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。			○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正なものであった。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。					

市町村名	読谷村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-⑤	喜名古窯跡整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部署名	教育委員会 文化振興課	事業実施(予定)年度	平成28～32年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	読谷村は沖縄を代表する古陶器喜名焼の製作地で、この歴史環境を背景にヤチムンのむら振興を展開している。この歴史背景の中心となる喜名焼製作地の喜名古窯跡を復元整備し、ヤチムンのむら振興の基軸シンボルの具現化につなげ、沖縄の焼物文化の保存と活用に資する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,223					
		(b)予算現額	4,223					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額						
		A.計(b+d)	4,223					
	B.執行済額		4,050					
	うち交付金充当額		3,240					
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		95.9%					
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。 不要額については、指名競争入札による入札残である。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度		
	喜名古窯跡整備基本計画を検討	目標	(実施)	()	()	()		
		実績	実施					
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	喜名古窯跡整備計画策定のための検討を行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)	
	喜名古窯跡整備基本計画書の完成	目標	()	喜名古窯跡整備基本計画書の作成	()	()	()	
		実績		喜名古窯跡整備基本計画書の作成				
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()	
		実績						
	進捗状況説明	喜名古窯跡基本整備計画書を作成したことで、成果目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今後の整備に向けて、基本計画を策定するとともに、現地の埋蔵文化財が開発行為等により失われないように、周辺住民への周知・理解を求めていく必要がある。	今年度策定した基本計画を基に、地権者や周辺住民へ説明を行い、今後の事業を円滑に進めていく必要がある。
今後の取り組み方針		
周辺住民の皆様へ喜名古窯跡が歴史的に価値がある埋蔵文化財であることを丁寧に説明し、今年度策定した基本計画を基に、将来的な整備方針を示し、事業への協力を求めていく。そして、埋蔵文化財をより良い形で保全し、多くの方々に親しまれるように整備を推進していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
読谷村 4,050千円 委託料 4,050千円 (有)MUI景画 喜名古窯跡整備 基本計画策定業務委託				
		総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額
		4,050	4,050	3,240
				市町村 負担金
				810
				交付対象 外経費
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は指名競争入札を行い、最低価格提示事業者へ決定し発注したので妥当と考える。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模は委託業務において入札残が生じたが、委託仕様のとおり業務を遂行でき適性規模である。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なもののなか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	読谷村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	中学生海外ホームステイ派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	本村の教育目標である「創造性・国際性に富み社会に貢献できる人材の育成と生涯学習の振興」の実現の為、村内の中学生12人を夏休みの1ヶ月間を利用し、英語圏に短期間派遣し、ホームステイを実施することにより、英語を学ぶことへの関心・意欲を高め、視野を広げるとともに国際性豊かな人材育成を目指す。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,400	3,600	3,600	3,600	
		(b) 予算現額	2,400	3,600	3,600	3,600	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	2,400	3,600	3,600	3,600	
	B. 執行済額		2,400	3,300	3,600	3,600	
	うち交付金充当額		1,920	2,640	2,880	2,880	
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	91.7%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		当初の計画通り予算を適正に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	短期留学費の支援:12人	目 標	(12名)	(12名)	(12名)	(12名)	
		実 績	12名	11名	12名	12名	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	村立中学校2校から、12名の中学生に対して海外(英語圏)への短期留学費一人あたり300,000円を補助した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	行った結果、生徒が英語を学ぶことに対し関心・意欲の向上があったと答えた保護者:12人	目 標	()	()	(12人)	()	()
		実 績			11人		
	【参考指標】 行った結果、生徒に変化があったと答えた保護者:12人	目 標	()	(12人)	()	()	()
		実 績		12人			
	進捗状況説明	短期留学費を支援した中学生の保護者を対象に、アンケート調査を行った結果ホームステイ派遣後に生徒が英語を学ぶことに対し関心・意欲の向上があったと答えた保護者は12人中11人であった。 目標を下回った要因としては、生徒が英語を学ぶことに対し関心・意欲の向上があったと答えなかった保護者(1名)の子ども自身からは、英語への関心が高まったとの回答があったことから、保護者に生徒の意欲が上手く伝わらなかったのではないかと考えるが、当該保護者においてホームステイ後の生徒の意識の変化については実感されている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	派遣前に事前研修を行っているが、注意事項の確認や、英語によるスピーチの練習に留まり、帰国した生徒から日常生活などにおいて文化の違いなどで戸惑ったとの声があった。	現地で生徒が困惑することにならないよう、事前研修において、これまでの事例を参考に文化の違い等についても予め周知を図る必要がある。
今後の取り組み方針		
生徒が安心して意欲的にホームステイに臨めるよう、派遣前にきめ細やかな事前研修を行うとともに、継続的なホームステイ事業を実施することにより、生徒の英語を学ぶことへの関心や学ぶ意欲を高め、視野の広い国際性豊かな人材育成を目指す。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>3,600</td><td>3,600</td><td>2,880</td><td>720</td><td>0</td></tr> </table> 読谷村 3,600千円 補助金 3,600千円 派遣対象生徒保護者 3,600千円 中学生海外ホームステイ派遣事業にかかる経費					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,600	3,600	2,880	720	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,600	3,600	2,880	720	0										
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○派遣される生徒は、学校長推薦により決定しており、選定方法は妥当と考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○読谷村補助金交付規則に沿って予算規模を設定しており、適正な規模である。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係は、読谷村補助金交付規則に沿っており、妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものであるか等について支出等に関する書類により確認、適正である。											

市町村名	読谷村									
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	6-①		地産地消推進を図る生産施設設置事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(7)-ア	
担当部署名	ゆたさむら推進部 農業推進課		事業実施(予定)年度	平成25～平成29年			沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備		
事業内容	年間をとおした多様な野菜を安定的に生産出来る環境の構築により、地域の消費需要(直売所、ホテル、飲食店など)への対応や「食と農」をとおした地域観光のイメージアップや農業振興を図ることを目的として、JA等が設置する栽培施設の設置費の一部を支援する。									
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()									
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			
	予算の状況	(a) 当初予算額	19,997	19,996	15,223	12,172				
		(b) 予算現額	19,997	10,570	14,160	6,664				
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 9,426	▲ 1,063	▲ 5,508				
		(d) 繰越額	—							
	A. 計 (b+d)		19,997	10,570	14,160	6,664				
	B. 執行済額		18,720	10,560	14,160	6,664				
	うち交付金充当額		14,976	8,448	11,328	5,331				
	次年度繰越額									
	執行率 (%) (B/A)		93.6%	99.9%	100.0%	100.0%				
予算の状況の説明		事業完了後実績報告を受け補助金の額を確定し支出した。予算の増減額は、補助事業実施主体(沖縄県農業協同組合)による入札残及び当初予定していた受益農家が、耕作地を確保することが出来なかった事に伴う事業予定人数の減によるものである。								
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)			達成状況						
				25年度	26年度	27年度	28年度			
	栽培施設設置支援	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)				
		実 績	実施	実施	実施	実施				
		目 標	()	()	()	()				
		実 績								
達成状況説明	当初予定していた事業導入農家が耕作地を確保することができず、事業量並びに導入農家数が減ったことにより、成果目標の変更を行った。									
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)			基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	・栽培施設の設置:面積864㎡	目 標	()	(5,600㎡)	(3,488. 6㎡)	(2,480㎡)	(864㎡)			()
		実 績		3,438㎡	1,836㎡	2,412㎡	864㎡			
	・導入農家:2人	目 標	()	(7人)	(7人)	(5人)	(2人)			()
		実 績		7人	3人	5人	2人			
	進捗状況説明	当初、事業主体が見込んでいた農家3人のうち1人が、耕作地を確保(新たな利用権設定等)ができなかったため、事業量並びに導入農家数が減ったことにより、成果目標の変更を行った。 成果目標変更後については、問題なく事業を完了することができた。 平成25年度からの事業導入に伴い、読谷村産の野菜の出荷量が増えたことで、地産地消に繋がりが「食と農」をとおした地産地消の推進を図ることが出来た。								

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	当初、事業実施主体が見込んでいた農家が、耕作地を確保(新たな利用権設定等)できなかったため、事業量並びに導入農家数が減ったことにより、成果目標の変更を行った。 生産面について、施設を導入した農家の生産力の向上が今後の課題である。	事業を導入する農家の農地の確保を早急に取り組む必要がある。 生産面について、施設を導入した農家の生産力の向上が今後の課題であり、農家への栽培指導等の取り組みが必要である。
今後の取り組み方針		
事業実施主体へ事業導入予定農家の農地の確保を早急に進めていくよう促していく。 生産力向上の取り組みとして、事業実施主体、農家、村で連携して栽培指導等に取り組んでいく。 平成29年度まで、引き続き農家に栽培施設の導入を行い、葉茎菜類等の増産を目指していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8,996</td><td>6,664</td><td>5,331</td><td>1,333</td><td>2,333</td></tr> </tbody> </table> 読谷村 6,664千円 補助金 6,664千円 沖縄県農業協同組合 6,664千円 沖縄県農業協同組合負担分 2,333千円 (交付対象外経費) 生産施設設置にかかる経費					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,996	6,664	5,331	1,333	2,333
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,996	6,664	5,331	1,333	2,333										
資金使途の流れ、点検評価・	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○読谷村における沖縄振興特別推進市町村交付金事業補助金交付規則により、支出先を決定しており妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業内容に見合い、適正であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金の割合については規則に沿っており、適正な規模および受益者負担は妥当であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は、事業完了後実績報告を受け検査し補助金の額を確定したため適正であった。											

市町村名	読谷村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-②		優良母牛導入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部署名	ゆたさむら推進部 農業推進課		事業実施(予定)年度	平成27～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	経営安定化・質の高い肉用牛の改良を進めるため、県内外のセリ市場から黒毛和牛優良繁殖雌牛を導入し、肉用牛生産農家へ優良種を普及させ、優良子牛の生産を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a)当初予算額	9,900	9,900			
		(b)予算現額	9,826	9,900			
		(c)増減額(b-a)	▲74	0			
		(d)繰越額	0	0			
		A.計(b+d)	9,826	9,900			
	B.執行済額		9,826	9,873			
	うち交付金充当額		7,860	7,898			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.7%			
予算の状況の説明		事業完了後実績報告を受け、補助金額を確定し、支出した。執行残はセリでの落札価格によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	優良母牛の導入支援	目標	(33頭)	(33頭)			
		実績	33頭	33頭			
		目標	()	()			
		実績					
達成状況説明	当初の予定どおり33頭の優良雌牛を導入し、肉用牛生産農家へ優良種を普及することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(29年度)
	今年度導入率33%(全導入目標数99頭)	目標	()	(33頭)	(33頭)		(99頭)
		実績		33頭	33頭		
	【参考指標】	目標	()	()	()		()
		実績					
	進捗状況説明	当初の予定どおり33頭の優良雌牛を導入し、今年度導入率33%達成したことで今年度の目標を達成することができた。平成29年度で残り33頭を導入し、優良種の普及に努める。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今年度も予定どおり33頭の優良雌牛を導入することができた。 導入した雌牛が肉用牛生産農家の経営安定化と質の高い肉用牛の普及に繋がるよう仕組みづくりが課題となる。	行政及び事業実施主体(沖縄県農業協同組合)で肉用牛生産農家への飼養管理及び生産技術指導を行う必要がある。使用管理及び生産技術を見直すことでより質の高い肉用牛の生産に繋がれば、結果的に経営安定及び質の高い肉用牛の普及に繋がると考えられる。
今後の取り組み方針		
より効果的かつ安定的な優良種普及のため、平成29年度までに優良雌牛99頭を導入し、牛舎の環境やひづめを削るなどについての飼養管理や家畜改良協会や畜産研究センター等の関連団体、人工授精師などの専門家に伺った情報を提供することによる生産技術指導、農業簿記講座による経営指導等を行い、肉用牛生産農家の経営の効率化と生産基盤の整備並びに強化を推進する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>28,864</td><td>9,873</td><td>7,898</td><td>1,975</td><td>18,991</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	28,864	9,873	7,898	1,975	18,991
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
28,864	9,873	7,898	1,975	18,991										
読谷村 (9,873千円) 補助金 (9,873千円) 沖縄県農業協同組合 (9,873千円) (優良雌牛導入にかかる経費) 沖縄県農業協同組合負担分 18,991千円 (交付対象外経費)														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	●読谷村における沖縄振興特別推進市町村交付金事業補助金交付規則により、支出先を決定しており妥当であったと考える。 ●予算規模は時魚内容に見合い、適正であった。 ●補助金の割合については規則に従っており、予算規模及び受益者負担は妥当であった。 ●費目・使途は事業完了後実績報告を受け、検査し補助金額を確定したため、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	6-③	読谷村農業関係施設機能強化促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-(イ)		
担当部署名	ゆたさむら推進部 農業推進課	事業実施(予定)年度	平成28～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	流通・販売・加工対策強化			
					Ⅲ-1-(6)			
事業内容	村内の農業関係施設(読谷村農村女性の家)の機能強化を図ることで地域内農林水産物の利用促進と新たな雇用の創設を図るために、読谷村農業関係施設機能強化促進実施計画を行う。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,494					
		(b)予算現額	5,494					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額						
		A.計(b+d)	5,494					
	B.執行済額		5,400					
	うち交付金充当額		4,320					
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		98.3%					
予算の状況の説明		計画通りに執行することができた。残額は委託費の入札残額である。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	読谷村農業関係施設機能強化促進実施計画の実施	目 標	(実施)	()	()	()	()	
		実 績	実施					
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
達成状況説明	読谷村農業関係施設機能強化促進実施計画を策定した。今後は実施計画に基づき、機能強化の実施を進める。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)	
	読谷村農業関係施設機能強化促進実施計画策定の完了	目 標	()	(実施計画策定の完了)	()	()	()	
		実 績		実施計画策定の完了				
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗状況説明	読谷村農業関係施設機能強化促進実施計画の策定を完了したことで目標を達成した。今後は基本計画及び実施計画に基づき、機能強化を進める。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	運営主体のあり方をはじめ、福祉部門や農業部門等の関係部署との連携による事業推進に向けて、計画の熟度を高めると同時に施設の実施設計を行うための課題整理を行った。 現存する施設を機能強化するにあたり、運営方法や設備の内容を実施計画に基づき検討していく必要がある。	施設の機能強化後の運営方法等を農業や福祉の関係部門・関係機関等と綿密に検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
策定した実施計画に基づき、平成29年度に実施設計業務及び関係省庁との調整等を行い、平成30年度には工事及び備品整備を計画的に進める。 また、実施設計及び運営方法の整理、平成31年度からの円滑な事業実施に向け、引き続き関係機関・部署との調整、事業運営に関わる諸条件の検討、段階的な事業展開を支える協議会の設置等についても検討を行う。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,400</td><td>5,400</td><td>4,320</td><td>1,080</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,400	5,400	4,320	1,080	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,400	5,400	4,320	1,080	0										
読谷村 5,400千円 → 委託料 5,400千円 → 株式会社 沖縄計画機構 5,400千円 〔 読谷村農業関係施設機能強化促進実施計画策定業務 〕														
資金の用途の点検・評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札を行い、最低価格事業者へ発注したので妥当と考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算額は、見積書等で必要最小限に抑えたので、適正な規模である。											
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途は事業目的の他姓の観点から必要かつ適正であり、支出等に関する手続き及び書類も適切に処理している。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村						
平成 2 8 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-①	地域にあったものづくり支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ	
担当部署名	ゆたさむら推進部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成26～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 Ⅲ-1-(7)	
事業内容	読谷村の特産品や商品を県内外へPRするために物産展等へ出展し販路拡大を図るとともに、本村地域資源を活用した新たな特産品づくりを調査するため、読谷村商工会へ支援を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	2,400	2,400	2,400		
		(b)予算現額	2,400	2,400	2,400		
		(c)増減額(b-a)	0	0	0		
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		2,400	2,400	2,400		
	B. 執行済額		2,400	2,400	2,400		
	うち交付金充当額		1,920	1,920	1,920		
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		事業計画どおり、適正に執行が行われた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	県内外物産展への出店支援	目 標	(補助)	(補助)	(補助)	()	
		実 績	補助	補助	補助		
	新商品の調査支援	目 標	(補助)	(補助)	(補助)	()	
		実 績	補助	補助	補助		
達成状況説明	事業計画どおり、商工会へ物産展出展及び調査補助を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	出店数	目 標	()	(5件)	(5件)	(5件)	()
		実 績		5件	6件	5件	
	開発支援	目 標	()	(5件)	(5件)	(6件)	()
		実 績		5件	6件	6件	
	進捗状況説明	出店数、開発支援共に成果目標を達成した。 物産展へ商品及び試作品を出展するとともに、これらの購買調査を行った。 それぞれの商品に関してアンケート調査を行うことで、味や価格だけでなくパッケージの改善点も見つかり、商品化、販路拡大にもつながった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	アンケート調査等を行ったことにより、パッケージや価格等についての意見を集めることができた。6件中5件が商品化し、残る1件も商品化の見通しを立てている。過年度も含め、商品化につながった案件の持続的な販売に向けて商工会とともに効果的な支援策を見つけ出していくことが課題。	今年度で事業は完了となるが、平成26～28年度に開発に至った商品のフォローアップを継続的にを行い、商品の改良や販売促進に向けて読谷村商工会と連携を強化する必要がある。
今後の取り組み方針		
今後、販売促進や販路拡大に向けて、開発(調査含む)を行った試作品のフォローアップ等について商工会との意見交換を行い、イベントでのPR活動等を実施していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>3,000</td><td>2,400</td><td>1,920</td><td>480</td><td>600</td></tr> </table> 読谷村 2,400千円 補助金 2,400千円 読谷村商工会 2,400千円 ・県内外物産展へ出展 ・新商品の調査 商工会負担分 (交付対象外経費) 600千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,000	2,400	1,920	480	600
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,000	2,400	1,920	480	600										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・読谷村商工会は読谷村内の事業所の大半が加入しており、公平性観点から支出先の選定は妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・事業目標を概ね達成しているため、適正な予算規模であったと考える。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・受益者である読谷村商工会は総事業費の2割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費用、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											

市町村名		読谷村					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-①	読谷村工芸品プロモーション戦略事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-イ	
担当部課名	ゆたさむら推進部 商工観光課	事業実施（予定）年度	平成26～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	伝統工芸品等を活用した感性型ものづくり産業の振興 Ⅲ-1-(7)	
事業内容	読谷村では、1978年に策定した「ヤチムンの里」基本構想により、村づくりの中でヤチムン（琉球陶器）の振興を位置づけ、ヤチムンの里づくりを推進してきた。現在読谷山焼等から60余りの工房が新たに独立している。今後のヤチムンの持続的発展をめざし、県外マーケットにおいてマーケティングを行うとともに、若手作家の作品を中心にプロモーションを行い、販路拡大や人材育成する。又村内にはヤチムンの外にも工芸品として花織り・琉球ガラスがあり併せて販路拡大を図る。						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	14,259	13,234	12,993		
		(b) 予算現額	12,463	12,946	12,031		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,796	▲ 288	▲ 962		
		(d) 繰越額	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	12,463	12,946	12,031		
	B. 執行済額		11,447	11,322	11,358		
	うち交付金充当額		9,157	9,057	9,086		
	次年度繰越額		—	0	0		
	執行率（％）(B/A)		91.8%	87.5%	94.4%		
予算の状況の説明		事業の効率化に努め、適切な予算執行だと考えられる。 予算減額の▲962千円については、旅費（航空運賃）の額の確定による減額である。					
活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	テストマーケティングの実施	目 標	（ 実施 ）	（ 実施 ）	（ 実施 ）		
		実 績	実施	実施	実施		
	展示会の出展支援（2回）	目 標	（ 実施 ）	（ 実施 ）	（ 実施 ）		
		実 績	実施	実施	実施		
	物産展への出展	目 標	（ ）	（ ）	（ 実施 ）		
実 績				実施			
達成状況説明	テストマーケティングについては、伊勢丹新宿店「めんそ〜れ沖縄展」、阪急うめだ本店「おいしい かわいい 沖縄展」、東京都内の雑貨店へ出展し直接消費者への販売を行った。 展示会への出展支援については、東京インターナショナルギフトショー、大阪インターナショナルギフトショーへ出展し、バイヤー等への周知等を行った。 上記の取り組みを行い目標である「ブース来場者2,000人以上」、「翌年度以降のプロモーション戦略等検討への反映」、「販路把握、顧客の獲得」を達成した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
	ブース来場者	目 標	（ ）	（ ）	（ 2,000人 ）	（ 2,000人 ）	（ ）
		実 績			2,000人以上	2,000人以上	
	翌年度以降のプロモーション戦略等検討への反映	目 標	（ ）	（ 実施 ）	（ 実施 ）	（ 実施 ）	（ ）
		実 績		実施	実施	実施	
	販路把握、顧客の獲得	目 標	（ ）	（ ）	（ 実施 ）	（ 実施 ）	（ ）
		実 績			実施	実施	
	進捗状況説明	各項目において目標を達成することができた。 次年度以降のプロモーション戦略等効果検証においては、展示会等において「読谷のヤチムン」の認知度を検証した。 前年度に引き続き、阪急うめだ本店「おいしい かわいい 沖縄展」でアンケートを実施し、「沖縄県のヤチムン」は79%が知っているが、「読谷村に多くのヤチムン工房がある」は39%であり、認知度アップに繋がった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	販路拡大を図るため、展示会や物産展等へ出展を行ったが、陶器業界のバイヤーに対する「読谷のヤチムン」の知名度向上に加え、消費者ニーズの掘り起こしが必要である。	展示会や物産展等へ出展しバイヤーや消費者等に対し周知を図った。更なる「読谷のヤチムン」の知名度向上や消費者ニーズの掘り起こし等を行うため、今後も継続して周知を図る必要がある。
今後の取り組み方針		
読谷のヤチムンをアピールするため、首都圏での展示会へ出展し映像等セールスツールの制作の実施とともに、百貨店などにおいて直接消費者へのテストマーケティングを実施し販路拡大と知名度アップを図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>11,358</td><td>11,358</td><td>9,086</td><td>2,272</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	11,358	11,358	9,086	2,272	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
11,358	11,358	9,086	2,272	0										
読谷村 11,358千円	旅費 4,143千円	職員21人 スタッフ21人 (延べ人数)	説明会・展示会・物産展等											
	需用費 652千円	事業に係る消耗品 ポスター作成等												
	役務費 576千円	パンフレット送付 展示会広告料等												
	委託料 2,476千円	光文堂コミュニケーションズ株式会社等 2,046千円	セールスツール作成委託等											
		読谷村社会福祉協議会 430千円	出展作品管理業務委託											
使用料及び借料 3,511千円	株式会社ビジネスガイド社 3,511千円	展示会会場使用料												
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○事業目的達成の観点から支出先の選定は妥当である。 ○本村の工芸品プロモーションを行う事業に見合った予算規模である。 ○支出等に関する手続き等も適切に処理しており、必要なものに限定している。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	9-①	読谷村防災情報システム整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ		
担当部署名	総務部 総務課	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化			
事業内容	自然災害時における情報伝達手段である防災行政無線のあり方を整理分析し、難聴地区への整備・改善を図るため、読谷村防災情報システム基本計画に基づき、防災情報システムの実施設計を行う。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
		(a) 当初予算額	7,905					
		(b) 予算現額	7,776					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 129					
		(d) 繰越額						
	A. 計 (b+d)		7,776					
	B. 執行済額		7,776					
	うち交付金充当額		6,220					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		100.0%					
	予算の状況の説明		予定どおり執行し、3月補正で入札残は減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度		
	実施設計の実施	目 標	(実施設計の策定)	()	()	()		
		実 績	実施設計の策定					
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
	達成状況説明	既存の防災行政無線の現状を把握して、補完システムの導入を検討をし、基本計画に基づき、実施設計を策定した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)	
	実施設計の完了 (防災無線更新図の作成、システム系統図の作成、役場庁舎配線図の作成)	目 標	()	(完了)	()	()	()	
		実 績		完了				
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗状況説明	実施設計が完了し、目標を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	○防災行政無線について 防災行政無線は台風のような風雨を伴う天候の場合、情報伝達に制約がある。また、沖縄には米軍基地があり、米軍機による騒音への対策として防音工事がされている等の気密性の高い住宅が増えている。 ○情報インフラについて 有線回線は断線してしまうと復旧には時間がかかる。復旧のタイミングは所有事業者により、非常時に優先されるとは限らない。民間の無線回線仕様帯域は、輻輳するおそれがある。(東日本大震災のときに通信制限がかかった) ○災害時の情報収集手段について 人員を動員し、災害現場へ直接行っているため、津波警報発令中でも注意喚起のため海岸へパトロールに行かざるを得ず、危険である。 ○観光客への防災情報提供について 観光客は土地勘が無いため、誘導が必要である。外国人観光客は、少なくとも英語による情報提供が必要である。	○防災行政無線について 子局の増設又は、スピーカーを高性能スピーカーに替える。防災行政無線だけではなく、コミュニティFMラジオ局からも情報を発信してもらう。 ○情報インフラについて 有線ではなく、無線方式で自前のインフラ網を構築する。無線の使用予定周波数帯(5GHz帯)は、民間での使用は無いことと、自前のインフラ網なので輻輳のおそれはない。 ○災害時の情報収集手段について 主要な海岸へは沿岸部監視カメラを設置し、動画によるリアルタイムな現地の情報(逃げ遅れが無い)の収集が可能である。 ○観光客への防災情報提供について 上記の情報インフラ網を利用し、災害時には無料のwi-fiスポットを提供するなど、民間事業者の通信網がダウンした場合でも情報提供が可能である。
今後の取り組み方針		
平成27年度で、既存防災行政無線の難聴地域の把握ができ、防災行政無線のあり方やその補完システムが基本計画で策定され、この基本計画をもとに平成28年度に実施設計を行った。 平成30年度に、情報伝達手段の多重化・多様化を図るため、コミュニティFMラジオ局からの情報発信や監視カメラ、4.9GHz帯無線等のインフラ設備及び情報伝達・収集設備の整備に伴う設置工事・システムの導入を行う。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7,776</td><td>7,776</td><td>6,220</td><td>1,556</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,776	7,776	6,220	1,556	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,776	7,776	6,220	1,556	0										
読谷村 7,776千円 委託料 7,776千円 株式会社環境設計国建 7,776千円 ・4.9GHz無線LAN電波伝搬調査 ・現地現況調査(設置場所調査) ・実施設計書(図面・工事仕様書作成)														
資金の流 点検・費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は事業内容に見合い、適正であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												